婦人世界

第六卷第七號

東京
弘道館

婦人と子ども第六卷第七號目次

卷首　瑞典式體操

婦人と子ども

家庭幼稚園……牧羊……一
方今の女子問題……文學博士……元良勇次郎……二
幼稚園に對する意見……伊澤修二……八
同……文學士……三輪田元道……一一
御土產と子ども……芙蓉生……一三
婦人と職業……記者……一六
新夫婦の理科問題……本郷生……一八
家庭衛生及醫術上の心得　醫學士　八田桓……二三
貞一の日記……その母……三一
實驗上の育兒……醫學博士……瀨川昌耆……三三
短歌……眞宮起雲……四〇
俳句……鹽野奇零……四二
手輕料理覺帳……石井泰次郎……四三
小兒改良服……東京府第一高女教諭　岡本ちか子……四五
婦人と親族法……太田英隆……四八

雜錄　數件

會報

子ども

おにばす……記者……一
春子と夏子……豐子……二

家政科夏期講習會員募集

今般本會ニ於テ女子師範學校高等女學校實用女學校教員受驗志望者ノ爲ニ女子ニ必要ナル家事裁縫ノ講習科ヲ設ケ來ル八月一日ヨリ二十日マデ講習會ヲ開ク志願ノ者ハ左ノ要項心得ノ上七月二十七日マデニ申出ラルベシ

東京市神田區錦町三丁目一番地（警察前）

東京女子教育會

要項

一、學科及講師

家事　東京女子商業學校學監　嘉悅孝子君

教育（幼稚園保育法）　女子高等師範講師　和田實君

音樂遊戯　元東京音樂學校教授　山田源一郎君

洋服裁縫　女子職業學校講師佛國修業　伊澤峰子君

國語　國語傳習所講師　平田盛胤君

實用衣類整理法　在大學院文學士　檻尾治君

家事裁縫　檢定準備科　高等工業學校助教授　松下喜三君

家計簿記　早稲田大學出身　實用女學校學監　村上直次郎君

割烹　東京簿記精修學館長　大原信久君

講師未定

一、科外講演　朝野知名ノ大家教育家ニ講ヒテ科外講演ヲ開キ講習員會員ニ聽講セシム

一、時間　毎日午前八時ヨリ午後六時迄一學科ニ付十回二十時間トス

一、會場　神田區錦町三丁目一番地東京女子教育會內トス（神田警察前電車至便ノ地）

一、會費　一學科一圓五拾錢二學科二圓六拾錢三學科三圓三拾錢四學科四圓五學科以上全科五圓トス

一、證明狀　出席ノ度數ヲ案ジテ授與ス

入會申込書

學科何々　現職　本籍　現住所　氏名　生年月日

右氏名印

右貴會ニ入會致シ度此段申込候也

年　月　日

東京女子教育會主幹宛

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

●大好評續々の新刊書●

學習院女學部長　下田歌子女史新著

女子の修養

(廿世紀女子教育の生粹)
(新家庭經營整理の寶鑑)

和裝全一冊
頗ル美本
正價金七拾錢
郵稅金八錢

本書は著者が女子教育の往々形式のみに流れ其の實質を失ふの憾あるを慨き嶄新の學理を緯とし平素の經驗を經としてものせられたるもの文章平易所説懇篤凡そ廿世紀に處する女學生及び閨秀の本分を全ふせんを期するもの須く本書なかる可からざるなり

發兌元　東京京橋區南大工町一番地　弘道館

電話本局二八四〇番

賣捌店は全國到る處の有名の書籍店にあり

前付の二

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

小兒科專門　小原賴之先生校閲
女子高等師範學校教授東基吉先生編著

新案 育兒日誌

(船來上等紙摺)
洋裝美本紙數凡そ四百五十頁
定價四十錢(總クロース)(全一冊)
特製五十錢(呑皮洋裝)(全一冊)
郵稅各八錢

●子ある家庭には必備の寶典

本書は東先生が從來我國にられたるものにして完全なる育兒日記のなきがために世の父母が兎角子供の日記を記し行くを怠りの主成分一覽表等に至りては小兒科專門小原先生の指示と校閲とに由りて懇切丁寧に記載せられ殊に育兒のことは一々實例を示されたれば勝ちなるを歎ぜらるゝの餘り多年考察の結果今回新に考案せ記入の方法の簡便なるが上に附錄兒童身體發育表、小兒の脈搏、體溫、齒牙、睡眠、發達の日時等より小兒の病氣、病室、營養、食物良書といふべく其他教育上の注意子どもある家庭には是非とも備へざるべからざる良書にして又實驗的育兒法として又從來の如きも至れり盡せりといふべし希に見らるゝ出產の祝書は最も適切文明的なるべし品として本

注意！　本書の定價は殆んど白紙の代價に等し。白紙の代價を以てして有益無比の本書は購求せらるべきなり

發兌元　東京市京橋區南大工町一番地　弘道館
(電話本局二八四〇番)

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

關西料理夏期講習會員募集

來る八月一日より一週間、大阪府下三島郡三島村(茨木停車場ノ便アリ)總持寺に於て料理夏期講習會を開會す、關西地方有志者は入會せられん事を希望す

◎料理開祖中納言山蔭卿舊跡地

◎講師　大日本割烹學會主任石井泰次郎氏

◎申込期限　七月廿日迄

明治三十九年七月

大阪府下三島郡三島村總持寺内
料理講習會事務所

伊藤直一郎先生著

長壽論

(大好評)

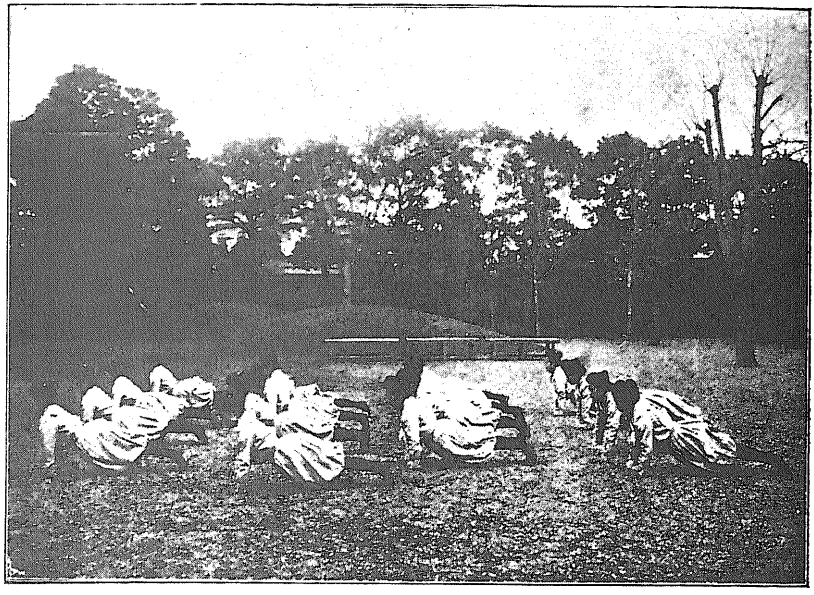
菊判形全一冊
正價金貳拾錢
郵税　四錢

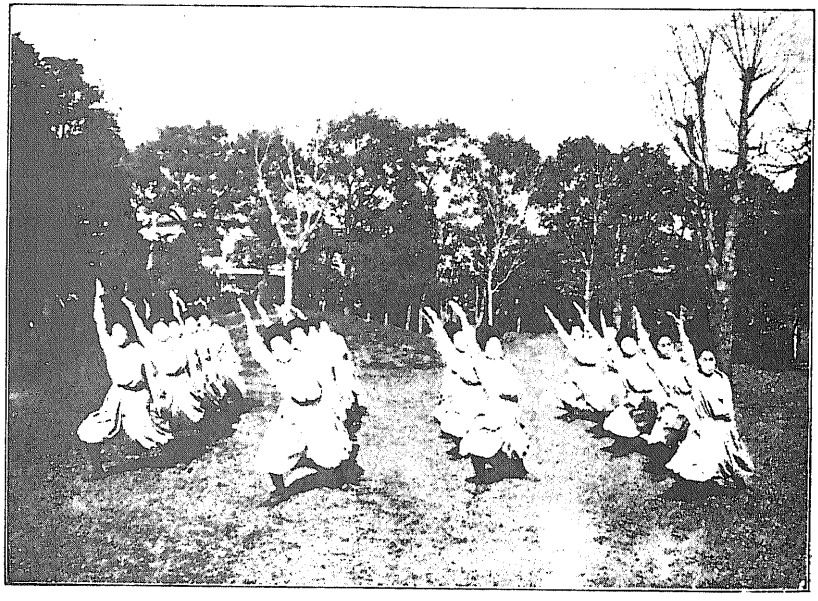
世運の進歩に伴ふて社會萬般の事業日に月に複雜を極むるは、是自然の趨勢なり隨て過度に腦力を使用するの結果不知不識の間に貴重の性命をして短縮ならしむるの感なくんばあらず著者大に觀る所あり慨然として本論を世に公にせらる苟も保身の術を全ふし大に天下に爲すあらんとするの紳士淑女よ請ふ一本を供へて以て座右の箴となし玉へよ

發行所　東京市京橋區南大工町一　弘道館

前付の四

瑞典式體操





（女子高等師範學校にて撮影）

小川一眞製

婦人と子ども

第六卷第七號

家庭幼稚園

先づ子供のある五六の家庭が組合つて、一つの幼稚園を起すとする、而して、其場所は、其組合の中で、廣い家があれば、其家と決めても宜ろしいし、又、今日は甲の家、明日は乙の家といふ風に、順々に一日〳〵に代へてもよし、或は又、一週間とか十日若くは一ヶ月毎に代へて行つてもよからうと思はれる。次きには保姆である、吾人の最も希望する所は、其組合のおつ母さん方が代る〳〵出て、一日五時間とか、三日間とか、働くと云ふことである、といふと、そんな呑氣なことは、吾々の家庭の妻にはやらせることが出來ないと云はれるかも知れない、然し、中流以上の家庭になれば之れ位の暇は充分にあるから、僕はそういふ方に御勸めするのである、然しそれも出來なければ保姆を雇ふても差支はない。

先づ、かういふ風に園場も出來、保姆も出來た、そこで組合の小供たちが、今日は誰さんの家、明日は誰さんの家と云ふ風に集まつて、今日は誰さんのお母さんが先生、明日は誰さんのお母さんが先生といふ樣になつて、そこて面白い、團欒的の幼稚園が出來ようと思ふ、是が即ち吾人の所謂家庭幼稚園である。此種の幼稚園が成立つた曉には普通幼稚園よりも種々の利益がある。第一、自分等の子供を、氣心のよく知れたお互の子供等と一所に置く所からして安心であるし、又先生といふのが、眞實の母たちだから各々十分の愛と責任とを以て其の任に當る、一つは家庭の事情が先生方に十分別つて居るから、保育に至極都合が宜しいと又衛生の上から云つても、經濟の上からいつても、誠に都合がよからうと思はれる、私は是非此種の家庭幼稚園の設置を皆さんに願ふのであります。併し此お願ひは決して私が突飛な事を考へ出したのではなくて、外國には澤山に例のあることで、且つ効績の明かな事でありますから、何うかして之を各地に盛に實現したいと思ひます。

（牧羊）

方今の女子問題

文學博士　元良勇次郎

▲人口を開けば直に我國は目下過渡の時期にあり新舊思想は雜然として混在し、其調和と整頓は尙前途遠き者なりなど云ふ。けれど昔は日本ばかりが然樣ではなくて西洋諸國でも矢張然樣なので、何處も同じ新舊思想の衝突は免れぬので、即ち西洋では諸科學の進歩や諸種の機械の發明の爲に、人生の生活に種々の變化が起り、爲めに風俗習慣を左右すると云ふ次第である。故に過渡時代と云ふことは獨り我國ばかりではなくて世界各國皆然らざるなしと云ふ譯である。殊に米國の如きは新開國にして風俗習慣の固定せるもの少く新說行はれ易き國なれば、爲めに種々なる異說や突飛な新流行を生み、以て世界變遷の動機となること多き樣に思はる。米國に於ける女子問題の如きは其一例である、即ち女子大學の如きは處々に設けられ、或は經濟の豐かなるに於て或は學術に於て各其名を恣にするものがある。余が見たるヒラデルヒアの近傍ブレーメンの女子大學の如きは宏壯なる石造の建物を有し、生徒は一人にて自習室、寢室等を各別に所持し、食堂の如きは實に華麗を極めて居る。斯の如く女子教育の隆盛に連れて婦人の中にも博士、學士等の學位あるものも出で、社會上の自由も權力も頗る發達したるを見る。從つて辯護士、醫師、說教師の如き職業に從事する婦人も決して尠なからず、遂にエンヂニーヤをして我米國婦人の侵さゞる職業は唯國務大臣と大統領のみと叫ばしむるに至つた次第である。

實に米國の女子問題は今や其極端迄自由を得たと

云ふことが出來る。近來此傾向に對して不平を唱へる人が彼國人中にも少くないのは尤もな次第と思ふ。

▲歐州に於る女子問題は米國の樣に自由でない。其中でも歐大陸諸國と英島國とは亦多少違ふ點があります。一体英國民は保守的傾向を有し其思想も沈着の方で妄りに流行に逐はれたり、容易く人に動かさるゝ方でないけれども然も之を大陸諸國に比すると云ふと餘程進歩して居ます。一般に云へば英國の婦人の樣子即ち風俗、習慣若しくば教育と云ふものは先づ中等で偏せず、走らずと云ふ可きものでありませう。極端なる男女同權論者もなく突飛な自由發展を試みるものもなく、能く婦女子の本分を守つて中正の行ひを守つて行く樣であります。去つて獨逸に行つて見ると大分劣つて見えます。例へは婦人を尊敬することなどは元と獨逸人種の義俠心から起つたのだと聞いて居ますが、教育の普及せざる爲めか英人などに比べると餘程劣つて見えます。そして此頃喧ましく云はれて居る女子問題は何であるかと見ると米國などでは三十年も前に論議されたものを今頻りと論議し其れに關する著書などもぽつ〳〵出て來ると云ふ仕末です。獨逸に於ける禁酒問題なども其一つで今盛に論議されて居ます。

▲夫れから是は國々に因つて多少違ひますが一般に一つの弊害と見る可きは奢侈の流行であります。是は實際に歐米を觀察し來るときは驚くばかりに其甚だしきを認らるゝのです。殊に婦人の奢侈に走れることは今は一般に認められて居る所であります。從つて今日では中等以上の生活をする

男子が一軒の家を構へて獨立すると云ふことは實に容易でないのです。獨逸などは之を英米に比べると余程低いものですが、夫れでも中々大したもので迚も普通のものには六ケ敷いことです。我國人の考で見たら何で其樣に金が要るだろうと不審がるかも知れないが、併し彼國の樣子から云へば無理がないのです。即ち一般に洋人は人と交際し人の集まりに出ると云ふことを好む爲めに從つて衣服裝飾を競ふことゝなり、其極金銀玉石に多分の金を捨てることゝなるのであります。勿論衣服裝飾は人格の表現で或度迄は必ず必要のものでありますが、併し其競爭となると是は止め度なく募るものですから是は或程度に制限する必要がありませう。即ち交際もよし美的精神も必要であるが併し其れが募つてバリチーとなると止めなければ

なりません。之を我國の今日に考へ合はせたらば大に憂ふ可き所ではありませんか。無論今日の我國には尙未だ歐米諸國の如き甚だしき樣子は見えませんが其傾向は多少ある樣に思ひますから戒めなければなりません。

▲凡そ物事は利害兩方面を有するもので其惡なる點を上ぐるときは可なり惡く云ふことの出來るものであります。殊に新聞に傳ふ所の如きは其を見て直に事實の眞相を思ふと大なる誤りであります。何故とならば新聞なるものは一種の山彦の如く夫れから夫れへと反響するものですから、其報導の始めは兎に角、其終りが實際の事實とは大なる相違を生ずることは當り前の事で、恰も伊太利の或家の如く、小さき實際の人聲も其響くのを聞けば大なるものとなると同じ道理であります。故

に新聞紙の報ずる所は大に注意して聞く必要があります。例へば今日の新聞紙には毎日惡人の行爲を報導しないものはない位ですから、之を眞面目に正直に考へたらば如何にも世の中は澆季になつた樣に思はれますが、併し是は惡なる方面のみを見るからで決して正しき觀察、斷定とは云へません。彼學生風紀問題なども其一つです。成る程今日の學生中には間々全く惰落して居るのもありますが、併し學生の大部分がそをと申す譯には參りません。是も一種の山彦で針小が棒大となつて響くのだらうと思ひます。此間も某新聞記者に成る可く書かぬ方針を取るか若しくば書くにしても之を重要視しない樣に書くと云ふことが必要ではないかと云つて遣つた位です。兎に角學生の墮落云々は其實よりも其聲の方が大きい樣に思ひます。

尤も私とても今日の學生は之を昔日に比べると費用の點に於て大に贅澤の度を進め其氣風も稍文弱に流れる樣になつて來たと云ふことは之を認めるのである。昔の學生は衣は肝に至り袖腕に至るで其質なども木綿に限られたものが今日は絹糸入りの着物を着て居ると云ふ風で元氣なども之に應じて違ふ樣でありますが併し一概に悉くが墮落したとは云へません、或は昔の學生が酒を飲み妓樓に出入することを堂々と友人の前に誇ると云ふ風であつたのから比べると然のみけなしたものでもないと思ひます。

▲之に反して婦人境遇などの方が餘程昔よりも變化して居る樣に見えます。即ち昔より婦人の三從として子としては親に從ひ嫁しては夫に從ひ老いては子に從ふ可しと敎へられ、絶体的に服從を強い

られたるものであるが維新以來女子教育勃興して婦權の進歩著るしく自由の範圍も廣まりて亦昔日の如き窮屈がない樣になりました。故に男學生の氣風の沈みたるに反し女學生の元氣漸次活潑の度を增したるは事實である。從つて婦女子の体格も一般に良好となつた樣であるが又是と共に男女同權論、女子尊崇論なども出て來たのである。

▲そこで今日の婦人の問題は如何にして此新思想と昔の絶体的服從說とを調和す可きかにあることゝなつた。學校時代では社界は大に婦人を優遇し可なりの自由を與へる爲めに相當に自由な發展が出來たものを、嫁して夫の家に入つて見れば舅姑は依然たる天保的頭腦で絶体三從說を唱ふると云ふ有樣で、之を調和するに大なる困難を感じ彼是と煩悶すると云ふことになつて居る樣で或は煩悶の結果、自殺を企てるものなどもある樣です。是に至て如何に之を處置す可きか一應人生觀を決定するの要があるでせう。併し吾々の考へで見ると此調和は何も六ケ敷いことはない樣に思ふ。成程昔の絶体服從は如何にも壓制であり無法であるが併し之と反對で自ら進んで服從することにしたらば何も不平を云ふ所はあるまいと思ふ。何故と云ふに一体服從と云ふことが果して今日の世の中に惡いのであるかと考へて見ると今俄に然樣とは極められない即ち僅か四十年前迄は大に必要であつた服從と云ふものが一朝にして不必要となる筈はない、道德は斯樣に速に變化す可きものではない、將來とても決して容易く道德の轉倒すると云ふことはないのである。且又昔とても外面に見ゆる程女を壓制したものではなくて却つて存外女の權

力があつたものである。唯昔は理も非もなく服從さしたものが今後は理非を分明にして服從を要求し尙一歩を進めては自ら進んで服從せんとするの覺悟を必要とする次第である。

▲總じて男子が進取的に社會の上に立ちて活動すると共に女子は是に共同し從屬して自ら其性に從ひ其本分を守りて能く自ら進みて服從內助の効を遂ぐ可きものである。今後も德孤ならず必ず隣ありとか陰德あれば陽報ありなど云ふて居る通り現在では女が壓服されて居る樣でも何處かで得る所があるので決して全然女子の損ではないのです。然るに若し之を思はずして現在男子の上に立ち男子と競爭し男子と權を同ふし樣など、考へたら今後は何處かで非常な損害を受ける處がなければなりませんぞ。此頃女子問題の勃興に連れて種々の雜念に取りまかれて方向に迷ふものもある樣ですが、要するに女子が自分自からの性能を悟り其本分を守つて行つたならば將來望多く此國家の發展に連れて益其幸福を受け得らるゝ樣になるだらうと思ひます。

是は博士が本月十七日女子高等師範學校內なる如蘭會席上にての演說の大要なり。博士の校閲を經たるに非らざれば文責記者にあり。

▲鳴天下倶樂部　突飛な事の多い米國では今度標題の樣な珍無類な倶樂部が組織されて現に四十三人の會員を有する由、而して同倶樂部に入らんとするものは左の資格なかる可からずと云ふ。

(一)毎朝夫人の許迄朝食を運ぶもの

(二)女中不在の時は自ら食事を調理し且つフオーク等は夫人の手を煩はさずして掃除するもの

(三)夫人外出の時は留守番となり小供の世話をするもの

幼稚園に關する意見

世人の幼稚園に對する意見は未だ一定せりと云ふ能はず。記者は頃日諸名家を訪ひて其意見を叩き之を讀者に紹介せんことを企てたれど事心と違ひ雜務に逐はれて未だ果さず。次には唯伊澤修二先生並に三輪田學士の兩意見を載す。以下また閑を得るに從ひて紹介の勞をとらんとす。乞諒。

伊澤修二

▲幼稚園教育が最初の必要機關であることは確かなもので、研究の餘地のあることも確かなものである。今度幼稚園を自ら經營したのも其邊の研究を充分自ら行つて見樣と思からなのである。併し幼稚園を始めてから未だ日が淺いので充分の研究材料はないしするから今遽かに確かな意見を述べると云ふことは出來ない。

▲そこで幼稚園に子供を出さぬと云ふ人は何う云ふ種類の人かと見れば、割合教育に關する業務に係はれる人、若しくば、教育學上に可なりの智識を有する人である。是は又頗る研究の必要を促す問題と云はなければならない。夫れで何故子供を幼稚園に遣らぬかと云へば幼稚園に子供をやると子供が早熟していけぬとか、或は子供がいぢけるとか云ふのである。けれども是等は皆從來の幼稚園に於ける幼兒の教育法が我國の幼兒に不適當であつた爲めなので、私は幼稚園其ものが決して幼兒を早熟せしむ可き筈のものではないと思ふ。また子供をいぢけさすと云ふが是は他に原因があつたのか或は保姆の眼が屆かなかつた罪で決して幼稚園其ものゝ性質より來る可き罪ではないと思ふ。然らば眞の幼稚園なるものは果して如何なる教育主義を實現す可きかと云ふに其詳しきことは目下研究中で今茲に說明することが出米ないが幼兒をして如何にも子供らしく無邪氣に應揚に悠然とし

た氣風を持つ樣に取り扱ひ、窮屈な規律に押し込めたり、無理な腦力を使はせたりする樣なことがなかつたらば現在の幼稚園に於ける缺點を除き世の一部の人の憂ふる樣な危險は之を幼稚園から除くことが出來樣と思ふ。例へば時間なども起居を一定の時間にし一日の生活を極めてきちやうめんパンクチユアレーにすると云ふことは必要には違ひないけれども、幼兒には必ずしも學校の樣に一分二分をも爭ふと云ふ樣にすることは能くないと思ふ。子供が愉快に遊んで居るときには五分や十分は何う變化しても差支ない、否時には多少の變化をしなければなるまいと思ふ。

▲又手技などを課しても少し六ケ敷なるとぢきに倦きる、其倦きた時に無理にやらせないで直に遊戯に移ると云ふ樣にしたらば、小供を無理に早熟さすと云ふ心配もなからう。或批評家が幼稚園は子供を小怜悧にしていけぬと云ふ其攻擊點が何うも明でないけれども要するに此手技などを無理に巧みに遣らせ樣とするなどを云ふのであらう。是も改むることは易々たることで凡べて子供が子供らしく無邪氣に工夫を擬らして造つたものに滿足すると云ふことにしたらば決して害はないと思ふ。

▲以上は私の意見を具体的に述べたものであるが尙之を概括して云ふて見れば要するに幼兒の教育は之を人工に近づけ、人工を甚だしく加ふると云ふよりは、可成的自然に委し自然に近つけると云ふことに重きを置き保姆は注意して之を無害有効の方に導くと云ふ方針を採つたならば過なからうと思ふ。即ち天然の動植物に親しませ、天然の現

象を經驗せしめて天然の發達に委せ天然の發育を誘導すると云ふ方が、却つて幼兒を悠長に育て鷹揚に慣らせると云ふ効力あるだらうと思ふ。從つて此方法で行つたらば小せつくとか早熟するとか云ふ氣遣ひは確になからうと思ふ。是が私の理想の幼稚園である。

▲併し規則や規律によらず、自然に放任する樣な風にして其間に導くと云ふのは、頗る六ケ敷しい事で中々言葉で云ふ樣に容易すく行ふ事は出來ない。例へば子供は騷ぐのがあたりまへで騷ぐなと云ふ方が間違ひであるから唯騷ぐなと押し付けるよりは騷がない樣に誘導すると云ふことが理想であるが、さて實際となるとなか〳〵然樣甘くは行かない。併し保姆の熟練次第で是は可なりに出來るものと思ふ。

▲以上述べた樣に幼稚園の理想と云ふものは、成る可く人工を加へないで自然にすら〳〵と行く樣に遣らせたいと思ふ所から私の幼稚園はあたり前の家を其儘使つて疊もひいてあれば庭もあると云ふ樣にしてある。是は子供が自分の家庭と幼稚園との樣子が餘り違はないと云ふ感じを與へるに最も都合のよいものであるのに加へて子供が或は座りて遊び或は相撲とりて遊ぶに最も都合よきもので幼稚園としては最も理想的ではあるまいかと思ふ。勿論机腰掛は備へてあるから机上の手技迄も座はらない必要はないが自由に遊ぶには最も都合がよいと思ふ。それから庭は築山は無論池も必要なら瀧や水車もほしいと思ふ。それから尙又鷄や兎の樣なものも頗る面白いと思ふ。是等は追々設備し樣と考へて居る。

同

文學士　三輪田元道

▲一般の世人は未だ幼稚園と云ふものゝ眞義を知らず、自分の子供を幼稚園に遣らうかよそうかと疑つて居る人は大分ある樣であります。何故世人の一般が左樣な考を持つかと思つて調べて見ると、一つは幼稚園と云ふものに對して頗る高尚過ぎて解釋をして恰も或部分に於ては一般の學校と同じく學術の一部を敎授する所であるかの樣に思つて居るのと、今一つは全く無智無盲で幼稚園其物を知らないからであります。幼稚園を以て學校と同樣な仕事をするものと見ると云ふ誤りは今日まだ一部の有識者中にもある樣です。フレーベル氏が幼稚園即ちキンデルガーテンと云ふ命名をしたのは決して一般の學校と同樣な敎授をしようとてゞはなくて植物が花圃に於て成長するが如く彼等幼兒をして遊園の中に嬉々たる遊情を滿足せしめ彼等を自然に近くることに依つて爛熟たる無垢の發達を遂げしめんがためであります。

▲隨つて幼稚園に庭園とか遊園とか云ふものは本來設備せらる可き筈で是がなくば幼稚園の名に負くものと云はなければなりません。然るに今日盛んに幼兒を收容して保育を行つて居る市内の某々幼稚園の如きは數坪の遊園は愚か花圃の一壇もなく、況して兎や小鳥などは藥にしたくも影さへ見えぬと云ふ有樣だそうです。是では迚も幼兒保育の本旨には適はぬことゝ思ひます、或參觀者が小供は何處で遊ぶのですかと聞いたらば室内で遊ばせると答へたそうですが市内には斯樣な所が數多くある樣に思ひます。土一升金一升の都會として

は仕方がありませんが今少し何うにか方法がありそうなものであります。

▲若し何うしても遊園の都合がつかず小供を室内のみで遊ばせる事になるとすると何うしても保姆の指揮する共同の遊嬉が多くの時間を取り、其間とても子供の年には不相當に餘りに友達が多くごたくもみ合つて居るので幼兒の神經は精一杯に興奮緊張して遂には頗る過敏になる恐れがあり、延いては早熟の弊も生じはしないかと思ふ、殊に保姆其他の人が妄りに小供の言行のませて手技の好妙なるを希ふ樣なことでもあると一層其害は烈しい樣に思ひます。是は極めて危險の事と云はなければなりません。

▲それで私は何處迄も幼稚園は其名の如く幼兒をして天然に近づける方の設備を完全にしてはしいと思ひます。嬉々として笑ひ興ずる中に自然の發達を遂げると云ふのが兒童の本性で此本性を充分發輝せしむるには又夫に應ずる丈の設備が要る筈であります。且つ今日普通の動植物類の名稱位は兒童が學校へ入學する前、不知不識の中に知らせて置きたいと思ひます。

▲要するに今日の世人が幼稚園を嫌ふものは幼兒が幼稚園に入つて益過敏となるを忌み家庭の設備の充分なるに依賴して之を避くるが爲めと一つには幼稚園を學校と見做し、強いて修學せしむる程の年齡にもあらねばと躊躇するに因るのだらうと思ひます。夫れですから今後は益幼稚園は學校にあらずして全く幼兒を愉快に遊ばしむる處であると云ふ考を世人に知らしむる必要があると思ひます。

▲或人は幼稚園は幼兒の遊び友達を得るために必要缺く可からざるものだと云ひますが是は一面大に眞理のある所で尤もの議論でありますが併し夫れにしては今日の幼稚園は頗る友達が多ぎる過ぎると云はなければなりません、從つて兒童に因つては却つて餘りに刺戟の多いのに恐れて幼稚園を嫌ふと云ふ樣なこともある樣です。故に此議論ばかりでは幼稚園必要の絶對理由とは云はれませんが此他に天然に親しみ天然に近づかしむる所の習慣を不識の中に養ふと云ふことが幼稚園必要の大なる理由とならなければなるまいと思ひます。

▲私は門外漢で幼稚園の內容に就ては餘り能くは知らないけれど兎に角今日の幼稚園は一般に學校に近ごいて居て幼兒の遊樂と云ふことには餘程自由を束縛して居りはしまいかと思ひます。

御土產と子供

芙蓉生

▲大人が外より來れば直に「御土產」をとねだる子供がよくあるので、或一部の人は御土產は惡るい習慣である。　子供に絶体に廢さなければならぬそして家族の外より歸宅した時は勿論客人の始めて來た人などに御土產の催促がましい事などあつては以ての外であるから、よく氣を付けてそんな物をほしがらぬ樣せねばならぬと云ひますが　是等も所謂角を撓めて牛を殺すの類ではありまいか

▲成程子供に御土產は動もすれば斯る面白からぬ結果を生ずることもありませうが併し夫れも遣り方次第だらうと思ひます、父母其他の人が外へ出れば必ず御土產を買つて歸つて、そして子供に「是が御土產だよ」と麗々と知らしめつゝ物を與

へると云ふことが度重なるに連れて子供は自然に御土産なるものを歡迎するの習慣の養はれたる折も折會〻來客の持ち來りたる菓子其他の物を子供の目前にて押し開き、恰も其土産物が其子供のために持ち來たされたるものなるかの如くに處置せらるゝことも多きために、遂には兒童をして外來人は皆自已に對して何者をか土産とするものと思はしむるに至る樣です。是等は今日世間には有り勝の弊習で唯只管に子供の意を歡迎せんとするより起る流弊でありませう、子供に取りて誠に無理もない事であります。併し之が爲めに御土産を全く廢すると云ふことは少し考へたいと思ひます。

▲一体子供と云ふものは極めて物質的で又有形的のものでありますから此性質に乘じて先づ有形より無形に導かんが爲めに父母其他の人が御土産物を彼等に與へて一には之を以て親愛の意を表し一には之を利用して彼等を或方面に導かんとするには最も有効で且つ最も自然的の方法であると想ひます。之は外より歸れる父母其他の長上を子供が歡迎するに當つて時に土産物など而も兒童の最も歡迎する食物玩具の類などが出たらば其時の子供はどんな感情を起すであらうかを考へたらば明に了解出來ることでせう。況して待ち設けた遠來の伯父さんや伯母さんなどの土産が如何に其子供を悦ばすだらうかは實に想像の外だらうと思ひます。要するに外來の人を歡迎する最初の心情を養はんとするには御土産は恰好の有形的誘導物であると思ふ、此等の點から考へて見ると子供に御土産物は一概に廢する譯にも行きますまい。

▲最も子供と云ふものは一方には頗る利己的のも

のですから如上の弊害は思はぬ中に起るに違ひありませんから、父母は豫め是等に對する覺悟を極めて子供をして兩親の歸りには必ず土産物あるものと思はせぬ樣注意することは必要であります從つて子供に御土産は必ずしも常に與へる必要はありません即ち御土産なるものは時々與へらるゝものであると云ふ考へを子供に持たせて置くことは必要なことであります。

▲尙又客人の御土産、是は必ずしも子供の爲めに持參されたものでないと云ふことを子供に知らしむる爲めに其土産物を其席に於て直に子供に與へたり、或は子供の前に於て妄りに之を批評したりなどすることはよさなければなりません。若し與ふ可くんば其席に妄りに子供を居らしめぬことが必要だらうと思ひます。最も其贈り物が特に兒童に對してのもので而も其人が兒童にも懇意の人と云ふならば直に其場に於て之を兒童に與ること必ずしも惡しきに非ずして時には却つて作法の良き練習となる時もあらんが、若し其人が子供に然したる關係なき人ならば其贈物は後にて適當の時に與へらるゝ方がよいでせう。

▲兒童が漸々發達して來ると遂には食物又は玩具等の外書籍、繪畫、其他の物品等をも土産として喜ぶに至るものであります、子供が此時期に達したらば矢張夫れに應じて土産物も變ずることが出來、從つて其選擇の範圍も廣くなり、敎育的の効果も大に增加せしむることが出來る樣になりませう。そうして又此時機には時には無形の土産も（談話、等）大に効果あらしむることが出來樣と思ひます。

婦人と職業

得能印刷局長談

婦人と職業との關係に就ては世論は益々盛んな樣でありますがまだ充分の解決が見られないは遺憾であります。併し理屈は兎も角、着々として婦人の社界上に活動するのは何よりも結構と云ふ事が出來ませう。殊に社界上に於ける人力の經濟と云ふ方面から見ても婦女子が有爲の頭腦や手腕を備へたまゝ徒に家庭に怠けて居るよりは之を社界上に利用することは頗る其當を得たものでせう。是に就て得能印刷局長の談話なりと云ふを聞くに參考となる可き節もありますから左に錄します。

▲婦人と社會　當今の日本婦人が社會から受けて居る壓制は、單に政治上の自由を與へられないとか刑法上の均等を得ないとか云ふことよりも、第一は職業上の問題であると思ふ、日本の男子は婦人と云へば男子同權の職業は爲し得ぬものと頭から極めて、婦人に働くべき職業を與へなかつたのでありますが、實際に職業を與へて見ると、如何なる事でも相應に出來ます、印刷局では最も古くより最も多く婦人を使用して居りますが、普通官廳に於て屬官のする仕事、例へば簿記とか、照會往復文を書くとか、算盤を彈くとか云ふをは充分に出來るをを認めて現に從事させて居ります。

▲職業と體質　婦人が職業を執るに當つては、男子が總て組織して其の職業を與へ、婦人をして計畫組織に參與せしめぬ所から、種々なる間違ひが生じて來ます、婦人の事は婦人でなくては分らう筈がありません、然るに男子は自己の身體知識を程度として事を圖るから、甚だ不合理なことが生

じて來るのであります、現に印刷局でも婦人の役員に總て椅子を與へないで、立ちながら働かすことに始め計畫され、其儘引き續いて今日も實行して居りますが、婦人は生理上の關係で、長時間立つて働くは困難であると云ふことを發見しましたが、今更ら是れを變更することも出來ず、其の方法に就て甚だ困つて居る次第であります。

▲教育と職業　婦人の職業者を監督するは教育ある婦人でなくてはいかぬ、故に印刷局で役員を採用する場合には、成るべく女子高等師範の卒業生などを採用するやうにして居ります、亦た教育のない者には僅少の時間なりとも割いて教育を與へ善良なる職業的婦人を作ることに勤めて居るのであります。

▲監督の能力　印刷局に於ても或る程度までの監督は婦人にさせて置きますが、最上の監督は男子にさせてあります、婦人では何うも出來兼ぬる、何故出來ぬかと研究して見ると、男子は人の上に立ち人を使ふことに興味を有つて居るが、婦人は服從的で、人に從つて事を爲すと云ふ傾きがあつて、人を使ふことに興味を有つて居りませぬ、要するに是れは男女性格ノ異る點から來るのでありませうがまた一面から考へて見ますると、是も教育が不充分な爲め、自然と人の上に立つことが出來ず、社會から壓迫された習慣性であるかも知れません。

△英國婦人は千人中毎年十四人宛結婚する割合だが歐洲の他の國では七人乃至八人に過ぎぬ、而して我が日本では八人内外の割合だといふ、

新婦夫の理科問答（上）

本郷生

正木直吉、彼れはつい此間迄御茶之水高等師範の第二寄宿舍より毎日重たげな足を大塚の彼の學校まで運んだ其校で評判の篤學者、今は靜岡の師範に其校の物理化學擔任の教師として赴任すべき辭令を手にしたものである。

正木夫人、名は綾子彼女も亦十日以前迄は竹早町の第二高等女學校の生徒であつた。

前からの約束も有つたであらう、二人は卒業式が濟んで一週間もたゝぬ今日、はや目出度き式をも濟まして、明日は相携へて新任地に出發する手筈である。

靜岡は○○町の○○番地、正木がふと目を醒して見ると、大分に室内は煙りて居る。して臺所にはピチ〳〵と音がして居る。綾子は、はや釜の下を燒きつけたのである。感心な事だ。今迄は學校の成績こそ三席を下つたことはないとはいへ、學校以外の事にかけては惡しき意味に於ける所謂御孃樣で、用意深き彼女の母が「そんな事では直に困る事が出來ますぞ」との前提を置て、いろ〳〵家事向のことを仕込まんとしても、一向に冷淡で濟し切つて居た彼女は、今は新家庭の主婦として、下女もなくしてやり通さんとするのである。

「綾さん大分烟らすじやないか」今楊枝を口より取りはずした正木は、睡たさうな目で釜の下をのぞき込んで居る。

「はい薪が乾いて居ませんで」と綾子は澁き目をこすり〳〵顏を横にして答へた。

寢衣の儘の正木は彼の得意な理科の實驗でもするかの態度で火箸をとり上げて釜の下に入れた。成蹟はどーも著しくない、綾子は古新聞を丸め込んだ。一時は盛んに燒へたが、數秒間にして又烟は出る、薪は腹立つたる蟹の如くシュー〳〵と後方より泡を吹て居る。

兎も角も朝飯は出來た。正木は木戸をこぐりながら一寸時計を出して見て、元氣よく學校に出掛けた。後には綾子がかい〳〵しく拭き掃除をするのである。

……

今しも夕飯は濟んだ。「如何です學校の御樣子は」と綾子は尋ねる。「あー別段に之れと云ふべきこともない、生徒も從順で勉强するらしい。どーも頗る愉快だ」。稍ありて正木は稍微笑を含んで「初めてい授業とはいへ綾さんの火燃しとは違ひますでね」とやつた。「だつて貴郎、薪が惡いんですもの」。

「そー薪は頗る惡いね、われちやイカン、よく日に乾かさねば。……一つ綾さんに火燃しの講釋を爲ましようかね」

「貴郎が火燃しの講釋つて？……」後は言はずして只微笑するのである。

「笑つちやいかんよ。吾輩は平素火箸こそ手に執らぬが、原理だけはよく知つて居る。一体乾かさない薪を用ふる程不經濟な事はない。燃え方のわるいのは誰も知る通り、よし燃えたところで甚だ火力が弱い……」

燃えぬときには格別ですが燃えさへすれば仝じではありますまいか、學問好きなる綾子は、はや學校生徒が其師に對するの態度である。正木は評判

の篤學者だけあつて、平素口數は少い方であるが談一たび自然現象の事に及べば急にデモスセネスも逃げ出す程の雄辯家となるが例である。彼は生徒的態度の綾子に對して、我知らず教師的の態度をとり、端なくも茲に類い稀なる少人數の理科教室は出現した。

「いや決して同じではない、早い話が第一薪に含まれて居る水氣が蒸發するには多量なる熱を要しましやう、高等女學校の教科書にもこの事がある筈。」

「あゝ何だかそんな事がありました」

「何だかじや閉口ですね、それは氣化熱と云ふもので、一合の今しも沸騰し始めた湯を悉く水蒸氣に化してしまうには、普通の溫度の一合の水を六回以上も沸騰せしむることが出來る程の多量の熱です、夫故に薪が濕りて居りますなら、第一に其濕氣が水蒸氣となる爲めに無益に熱が費えねばなりません。これ損失の第一理由であります。次にです……」正木は急に氣付いたやうな風で「あゝ何だか餘り學校句調になつた……」と聲を低める。綾子は只微笑するのである。

「次に此水蒸氣が火焰に混じて立ち昇るとしなさい。此時いやでも熱くなりませう。熱くなるには何處より其熱を奪ふのでありますか。薪の燃燒に由て生ずる熱、即ち廣い言葉で云へば、燃燒と云ふ化學變化に伴ふて、生ずる化合熱を奪ひ來りてしたものに相違はない。して見れば火焰の溫度の下降は必然の結果と申さねばならぬ」

綾子の頭にまだ何事か明瞭にならぬものがあると云ふことを彼女の顏に讀んだ正木は、更に語を續

けて「化合熱つて分りましたか、化學變化のときに生ずる熱のことだ」

綾子「それは分りましたが、それでは火力が弱いと云ふは熱の出方が少いと云ふのではなくて化合熱が他の方面に費えるからと申のでありますか」

正木は語勢を強めて

「そー、此問題の要點はそこにある。出て來るべき化合熱の總量と云ふものは、全種のもの、全量が燃た場合には、如何なる風に燃さうとも、又濕氣があろうと無かろうと、悉く同じことである。之は綾さんには珍い話しか知らんが熱化學の第一法則と云ふは之れである。此同じだけの熱を以て多量のものを熱するか少量のものを熱するかと云ふことで、火焔に温度の比較的に低きものと高きものとを生ずるに至るのである。それだから見なさい、水蒸氣に限らず空氣でも全じことで、燃燒に必要なるだけの空氣の外、餘分の空氣を混入すれば、やはり全樣なわけで火焔の温度は下降する之は極端な例で言へばよく分る、即ち火を吹き消すと云ふ現象が之れであつて、火が消えるとは餘り餘分の空氣がやつて來るので、火焔の温度が下降に下降を續けて、遂に其燃燒物の所謂發火温度……發火温度つて分りませうね……其發火温度以下に下るが爲めに起ることであります。こー云う譯であるから啻に濕氣ある薪炭を用ふるが宜しくないのみではない、餘分の空氣を竈内に入れると云ふことも實は避くべきことである、それであるから舊來の竈で、口に戸を持て居らぬのは仕方がないとして、家にあるやうな二重口を供へた竈では、小さい下の方の口ばかりを開いて、煙

の出ぬ限り成るべく空氣を儉約せねばならぬ。」

理窟はよく分りましたが實際も左樣でしよーか、團扇であぱぐと火がよくきく樣ですが」と聰明なる綾子は理論を聞て之れを了解するや否や、直ちに事實の法庭に訴へて其最後の判定を待たんとするのである。正木「それは事情が少し違ふ。吾輩の談しは全時間内に同量のものを燃すときの話しで、綾さんのやうに團扇であぱいで一時に多量のものを燃燒せしめて、之れを少量を燃した時に比較しても論にはならぬ。じや一つ實驗して見ましようか……此ランプで實驗して見ても大略は分る。綾さん一寸まつちを……」と云ふて、自ら立ち上りて襖に懸けられたる自分の洋服のポッケットより時計を持ち來つた。

「さー吾輩が此まつちの穗をぱやの上に出すから、

全時に綾さんに此時計を見て何秒時にしてそれが發火するかを御覽んなさい」

今しも理科の實驗は兩人の共同で始まつた。而して滯りなく遂行せられた。數回實驗の結果は、ぱやの上に差し出されたるまつちは發火する迄に平均十七秒と少しを要すと決定した。

今度は少し「ぱや」を引き上げて、空氣が下の金網を通してのみでなく、ぱやの下をくゞりても行くやうにしませう……さー之でよい……吾輩少しも心を動かしませんから、一定時間内に燃燒する石油は、前と少しも變りやせんよ……只空氣が前よりは餘分に入つて居ると云ふばかり……之で前通り實驗して見ませう。」

綾子が時計を見る。正木がまつちを引き受けて實驗は更に始つた。五回の實驗の平均數は五十三秒

となつた。綾子は目を丸くして成る程と云ふ躰である。

「どーです、全樣に石油を燃しても、空氣供給の過量なるが爲めに、此はやの內の溫度が頗る下るものであると云ふことは此れで大躰は見られませう」

綾子は「有難ふ御座いました」と優かに禮をする。正木は得意滿面である。

* * * * * * * * * *

▲オリーヴ油と美貌　英國一醫師の說に據ればオリーヴ油を飲み或は此油にて食物を調理する等絕えず食事にオリーヴ油を用ふるときは皮膚の色艶々しくなりて常に美貌を保ち得る由にて其故はオリーヴ油が消化を助け皮膚中の脂肪を適度に保ちて皮膚の爲には最も適當なる食物なるに在りとの事なり但し此油のみを過度に飲用するは却て害あり

家庭に於ける衛生及醫術上の心得

醫學士　八田桓

家庭衛生上に於ける主婦の事業に關しては、世人既に幾多の經驗もあり記載もあり、最早今日に於て改めて之を諜々する必要を認めずと雖も、事態既に衛生の範圍を脫し將に疾病の來らんとする時、又は其疾病中、又は其疾病後未だ恢復の狀態に達せざる時、又は急救手當等に關しては、未だ一般に知られず。是が爲め危機一髮、一刻千金の際徒に手を空して一に醫師の指揮を待ち、是が爲め機を失するをあるに至りては、實に慨嘆の至ならずや。是に於てか、此時に際し家庭にして取るべき注意及一定の方針を知るを、最必要なる目下の急務なりと信ず。然りと雖も、余は今世上の一

般婦人に向て專門醫術を語るにあらず。唯々一般家庭の主婦として心得置べき最必要なる件二三を述べ、以て是を實地に應用せられんを希望するのみ。言或は繁に流れ或は稍專門醫術上に走るをなきを保せずと雖も、是とて敢て蛇足の事にあらざるを信ず。

一小兒の衞生及看護法、

小兒は疾病中は勿論のを健康時に於ても最注意深き看護を要するを當然にして、又蓋し婦人として家庭の最主要なる業務たるのみならず、最慈愛に富める事業ならん。小兒は割合に短日月を以て著しき發達をなすものなるが故に、同じく小兒にても未だ一歲の乳呑兒と六七歲の小兒とは非常なる差異を有するを以て、一理に小兒と名づくるよりも之を便宜上分て三となす。

出產後一歲までを新生兒と云ひ二歲より六歲までを幼兒と云ひ七歲より十四歲までを小兒と云ふ。

（い）新生兒の衞生及看護法、

新生兒に必要なる要件は下の四箇條なり、一には身体の溫度、二には十分なる睡眠三には身体の清潔、四には適度の滋養物なり。

新生兒は溫度を失ふ時非常の害を及ぼすものなる故是に相當せる裝置をなさゞるべからず。衣服は直接皮膚にふれる襦袢等は可成刺戟の少なきもの毛類は不可にして柔き白木綿最適當せり。其上には輕くして保溫の性を有する質の粗なる物を以て作るを可とし。而して是を西洋にては搖藍の如きものに入れ置くなり。夜間等は決して母と共に睡らしむべからず。是れ今猶屢新聞紙上に散見する所の母親の乳房に壓せられ窒息死を致すをあ

るを以てなり。居室は何處も平等の温度を保たしめ列氏十五度位を可とす。寒暖計及冬は暖房等の用意最も必要なり。又室内にて臭氣強き食品の煮沸、又は火鉢等は可成禁ずるを可とす。寧ろ室内空氣の流通を計らざるべからず。然りと雖も直接寒風の室内に流入せざる樣にすべし。而して出産後二週日を經て始めて温暖なる日にては暫時戸外に持出し新鮮なる空氣に暴露するを可とす。而して健全なる新生兒は出産後約一ケ月は殆んと睡眠中に經過するを常とす。其中二三時間は醒覺時にして其時は活潑に四肢を動かす、是れ飢餓を訴ふるか襁褓の汚染を訴ふるものなり。夏時は蠅蚊を防禦し眩目する如き強光線を避け襁褓は常に清潔に洗濯し再び之を用る時は適當に温めて之を用るを忘るべからず。斯くして凡てに注意して後食事を與ふるも猶泣鳴する時には、是れ必ず他に病氣あるが故なるを以て專門醫を迎ふべし。又清潔と云ふ事は新生兒に最必要なるもの丶一にして、毎晩一度づ丶攝氏三十五度(体温と同じ)位に温浴せしめ、全身殊に大小便排泄口の近方は誠に注意して洗滌し、此時注意すべきは小兒の皮膚は非常に弱く少の固さものにも直に創を生ずるを以て、柔き手拭にて洗ひ後は能くタウルに包み自然に水分を拭はしむ。又一つ注意すべきは顔面にして眼、耳、鼻、口等は皆黴菌の易く入り込み、是が爲めに急性の炎症を起し不測の災を被り、產れながら失明等に陷るをあるを以て、顔面を手拭にて拭ふ時は先つ清潔なる温湯にて眼瞼を拭ひ、次に耳、鼻、口の順序に拭ふべし。又身体にても大小便にて常に汚染さる丶所の皮膚は少しく清潔を

怠れば、前述の如く柔軟なる皮膚は是が爲に刺擊され赤色のぽつ〳〵が其所に生じ、是れが破壞して潰瘍となり、之より性質猛烈なる黴菌の浸入するをあらんか、忽ち全身に變狀を來し此の爲に危篤に陷るをなきにあらず。注意せざるべからず。併し小兒の溫浴は五分間より永からざる樣に注意すべし。猶新生兒にて臍胞の脫落せざる間は入浴後、是を殺菌ガーゼにて包み薄く脫脂綿にて包み柔き木綿にてゆるく繃帶を施すべし。然れども消毒不十分なる恐ある故醫師の注意を仰くべし。新生兒の食物是れ最困難なるものゝ一にして生產後十ケ月間は、母乳最も適當に是れ以上の佳良なるものなきも、母親の死亡、病氣、等にて事情上母乳を與ふるを能はざるものは已を得ざるを以て他の食料を撰ざるべからず。是には第一乳母、牛乳、山羊乳等あり。普通牛乳最多く用らる、乳母は第一其人の健康にして、惡疾等なきやを診斷するを必要にして、第二には其乳の性質なり、乳は出產當時は新生兒に適當する樣に最稀薄にして後に至るに從ひ濃厚となる。其時期に適せざるべからず是中々容易の事にあらず、故に牛乳は最便利にして可なり其用法は瓶共に熱湯入れて煮沸し、之を体溫になるまで冷し之を與ふ。之を與ふる牛乳は矢張り發育するに從ひ濃厚なるものを用ざるべからず。其割合は出產後一ケ月間は乳一、湯二の割に混じ與ふ二三ケ月間は乳、湯、等分に混じ、四五ケ月間は乳三、湯一の割合、六ケ月以後は乳のみを用で可なり。是と同時に六七ケ月に至り乳齒を生ずるに至れば肉汁、柔き麵麭、ビスケット等を與へ漸次成人と同樣なる食物に移らし

むるなり。故に牛乳の良否は直接新生兒の健康に影響するを勿論にして最注意すべき問題なり。又之を用ゆる方法に於ても一層の注意を要す。牛乳は搾取後夏なれば六時間を經たるもの冬なれば十二時間を經たるものは最早用ゆべからず。之を保存するにも有蓋の器物に入れ之を冷所に貯ふ、又酸敗を防ぐ爲に牛乳五合につき重曹一刀尖量計り加へ貯ふべし。(大底小匙に半分位) 又用ゆる護謨製乳頭は常に清潔にし水中に貯ふべし。牛乳を一日に用ゆる分量丈け毎朝煮沸して貯ふる爲に作れる一定の器物あり。此中に保存すれば乳は決して腐敗を來さず一週間も貯ふるを得るものなり其構造は下の如し。

先づ一日の所用量は大抵二十四時間二リーテル(一升位)を一瓶各一合位づゝ入る所の硝子瓶十個に分ち入れ、其栓には中央に穴を穿てる護謨を以てつめ、之を一度に金屬製の煮沸器の中に瓶共に入れ、瓶の周圍には水あり水は瓶の口元まで達せざる樣に裝置し、之を煮沸す、沸騰を初めてより少くも五分間は此中にて煮沸せる時其護謨の穴を硝子の短き棒をさして全く瓶を閉鎖し、又三十分計り煮沸す次に其瓶を一度にあげ是を冷所に保存し隨時之を取出して用ゆ。斯く消毒して用る時は一週間は勿論三四週も保存するを得。斯くして毎朝一度づゝ用量丈け煮沸すれば至極便利に用ゆるを得。此器械を Soxhlet の小兒牛乳煮沸器と云ふ。

小兒の發育は實に早く出產後一年にして談話を始め、又室内を走るを始むるなり。此時に當り發音と簡單なる語を敎へる歩行の稽古も漸次時を追

ふて之を助け教るなり若し小兒にして、一年三ケ月又は一年半に及ぶも猶歩行等不能の時は醫師の診斷を仰ぐべし。斯くて暫時にして歩行を自由にして十分に意志を語るに至る此時代に至れば決して其發育に故障を及ざざる樣に注意し好天氣には終日戸外の危險なき所に嬉戯せしむるを可とす。然れども小兒の精神上の發育に向つて餘り緻密過ぎる如きものは可成之を避くべし。小兒は四歳迄は晝間にても一二時間睡眠をとらしむるを必要なり。又十歳までは可成早く就寢せしめ少くも十時間は睡眠をなさしむべし。小兒の教育は少くも七歳以後を可とす、又た之を教訓するに當て堪忍を以て最親切に最熱心に行べし決して性急、嚴格に失する行あるべからず。又小兒の食事は六歳以上は成人と同樣なれども殊に小兒は甘味に富る砂糖類を嗜好するも、之も一定度を越ゆべからず是れ齒を害し必要食物の食慾を減ずる恐あるが故なり。

新生兒の病氣及看護法、

一、皮膚殊に臀部及大腿の内側等に來る濕疹又は潰瘍にして、之れ一に母親の不注意より大小便の不潔物にて濕潤さるる爲に來るものにして、其療法は常に入浴を勵行し清潔を旨とし其部の乾燥を計る爲に粉末劑即ち亞鉛華澱粉等を散布すれば、大抵治癒し又豫防となるものなり。

二、又乳兒の口中の清潔を怠る爲に來るものは、頰の内面、舌、唇等に白班を生ず、之も二%の硼酸水を浸せる脱脂綿にて日々之を拭ふべし。

三、新生兒の眼炎、之は餘程危害を及ぼす疾病にして、易く傳染するものなり。故に產後眼を開か

ず、眼瞼の間より膿を漏せる時は、直に之を硼酸に浸せる脱脂綿球にて拭ひ醫師の注意を求べし。又冷水を浸せるガーゼにて濕布をあてると必要なり。假令是が一眼に起るも他眼に及ぼす恐あるを以て、疾眼に觸たる手にて健眼を觸るべからず。故に目下産婆は出産後種々なる黴菌の眼瞼間に殘れば眼炎を起す恐あるを以て眼炎の有無に關らず出産後直に眼瞼を開かしめ直に藥液を摘下し眼炎を豫防すると規則となり居れり。獨乙にては此方法を始めてより著しく新生兒失明者の數を減したりと云ふ。藥液とは二%の硝酸銀水にして是にて眼中の黴菌を死滅せしむるなり、之を Credé の法と云ふ。

四、少兒の嘔吐、一度に多量の乳を與へたる時に起るか又は腐敗せる牛乳を用たる時又は胃に疾病ある時に起るなり。然れども第一の原因最多數を占む新生兒一度の飲量百五十グラムより以上用ゆべからず。

五、便秘、新生兒の便秘には餘り藥品を用ゆると宜敷からず又他に方法あればなり牛乳中一合に小指頭量の食鹽を加へ用ゆれば適當に便通あり。猶必要によれば灌腸を用ゆるも可なり。

六、下痢、是れ最も新生兒に向つて危險なるものにして、歐州にては三十万乃至四十萬の少兒死亡者中新生兒の下痢の爲に死せるもの大部分を占むる位なり。故に新生兒の下痢は決して忽にすべからず。先つ健全時の新生兒糞便は、黄色にして粥の如く稍酸臭を帶ふ。一且下痢に陷る時は粘液性にして綿の如くなり水泡多く稍綠色を帶ふ、又其度數は一日健兒は二—三回を常とすれども六回

より七回に增加す、且つ屢熱發を伴ふ斯る狀態にて永續せば易く衰弱し猶惡しき場合には嘔吐を兼ね數日にして斃るゝをあり。原因は大底腐敗せる牛乳、不潔なる食物等より起る。母親の乳を飲用する小兒には殆んど下痢にかゝるを少し。之に反し牛乳にて育する小兒には此事最頻繁にして、獨乙にては牛乳のみにて育せる小兒を瓶兒(Flaschenkinder)と云ふ。瓶兒に最多し。殊に暑季に於ては牛乳は易く腐敗し疾病に罹り易し。故に夏季は殊に牛乳の煮沸に注意を要す。夫にても猶下痢止まらざれば牛乳を止むべし。其代りとして肉汁、葛湯を混用するも可なり。然れども下痢は一定の時期に來る時あり。即ち小兒の齒牙の發する時期に於て下痢の來るをあり。是の爲に來る下痢なれば殆んど避くべからざれども是が爲に危險に陷る如きを少し。

七、痘牽不隨意に顏面、四肢、全身等のひきつけを來すをあり。俗に之を虫と云ふ是は小兒には敢て稀なる現象にあらず。痘虫が腸に出來又は發熱、腦の疾病等の時に來るも、大底は無事に經過し何の痕跡も殘さゞれども稀に之が爲に死し又は之が習慣となるをあり。其時は体溫を計り冷水にて灌腸し又頭部を冷却し醫師を迎ふべし。

八、種痘　是は獨乙にては法律上生後一二年中種痘を行はざるべからず。日本にても殆んど法律となれる如し。種痘前には入浴し、清潔なる衣服を着せ種痘後は食事等には別に異なり、第四日目に結果好きものは小水胞を生し稍發熱す。小兒は稍不機嫌なり。九日頃には大くなり豌豆大の膿胞となり其周圍は赤くなり遂につぶれて十二日目に

は痂皮を生ず。三四週間後には全く治癒脱落す。種痘の場所は可成之を保護し搔き傷つき等なさゞる樣注意すべし。袖は可成廣きを可とす。

▲徒食者と勞働　佛蘭西の或統計家は面白い事實を示して居る、其處で先づ四百八十六人の無食の乞食に向つて、日に四法になる仕事を授けるとのことを紹介したのだそうな、處が其内で指定された所に出頭したものが百七十四人、其他は勞頭から就職を望まない。それから愈仕事に取懸ると百七十四人の内早くも三十七人は半日働いて二法を貰つて晝食をしに出て行つたきり餓砲彈になつて仕舞つたので、無事終日働き終せたのが百三十七人、しかも其内又一日分の賃錢にありついて翌日からは顔を出さなかつたものが六十八人、それから又其翌日には五十一人が十八人になり、而して此の十八のみが百七十四人の多き内で兎に角汗を食に代へる立派な勞働者になつたと云ふことそれから又或冬、某慈善家が無職者と自稱する先生達七百人を窮食させて居つた、で一日勞働者救濟授職所に行くことを勸めた處が、其勸めに應じて求職に出懸けた者が百人あるにはあつたが、結局二日の後には後にも先にも只の二人しか授職所に居殘らなかつたそうである。

貞一の日記（承前）（拔萃）（明治廿六年五月生男兒）

その母

五月廿四日　昨日よし（女中の名）と見て來りし、御嶽神社の御神樂の話をなす、『フタリガツナゲシテ　オドツテ　トンボガヘリヲシタ『メンヲ○○○○カツイデオドツタ（假面を被りて）』とよしの地方訛を眞似していふ。

五月廿五日　此頃は自分が父さん、母さんになり母さんを貞一にして遊ぶ、母さんの聲色中々上手なり、『ナクトステテシマウヨ、』『サアダツコシテアゲヨウ』『ホントウニカミカミシテオアガリヨ』などまじめな顔していふ。

五月廿九日　父の不在中、西村伊作さん來訪せられしに、早速電車の畫を書いてもらふ、寫眞帖を見て居られる西村さんの傍に居りしが、父母

と三人にて寫したる寫眞を見るや直に、父の顏のあたりへ、今書いて頂いた電車の繪をさしつけて、『トウサンゴラン』と見せる。

五月卅日　小原先生の許にて體量を見て頂く

一、二七七〇〇瓦あり、丹誠の甲斐ありて、成績宜しき方なり、滿三年の小兒のあるべき體量よりも、三〇〇瓦ばかり多しと仰せらる。

五月卅一日　今日は滿三年の誕生日なり、親類の子供を招く、靜子さんより、御祝として頂いた水鐵砲が氣に入つて、水遊びしてはキャッ〳〵と騷ぐ、今迄赤飯を喰べさしても、小豆はより出して、喰べざりしも、今日ははじめて、小豆も喰べさす。

附記。　これにて貞一の滿三年までの日記は終はりぬれば、一先こゝにて擱筆す。いと長々と書き續けて讀者の倦厭の程も左こそと推し量られて。（その母記す）

この日記にても知らるゝ如く、貞一は滿一年の頃より腸胃の病氣にかゝり夫より大方一年半の間は寧ろ病氣の日の方が多かりし位、一時は殆んど賴み少く思はれたる事もありたり從つて宵て方の上にも出來るだけの注意をなしたるに。

『夫にては餘り規則的にて、貞チャンが可愛相ではありませんか」とて、屢、同情深き友より忠告せられし事もありき。『そんなに規則的にするから、子供が弱いのですなあに放拋つて置く方が反つて丈夫なものです』とは、子供のまた持てる友達の忠告なりき。然も之等同情深き數多の忠言ありしに係はらず、貞一の營養法は何處までも規則的なりき。いな〳〵今も尙菓子の

種類も一定して、餡物は一切與へず、菓物も、覆盆子の汁位が精々なり。食事の時間も嚴に一定し居るなり。かくて、其後の發育は極めて良好にして、三島氏の健體小兒發育表の相當年齡の小兒の體量に比べても、又は外國人の發育表の夫に比べても、量目多きを見るに至りたり。皮肉な口癖の馬上おぢさんも、此頃の貞一を見てはさすがに「こらどうだ、この肥り方は」!!と歎賞し呉れるなり。されば貞一の健康の回復は全く、信じて行へる規則的の育養法にあることを、こゝに表述し、併せてこの結果を得たるは、全く吾が信頼せる小原國手の賜物なることを、茲に同國手に向つて深く感謝す。

（父記す）

實驗上の育兒

醫學博士　瀬川昌耆

恐るべき哺乳兒脚氣

▲脚氣の毒　母親が脚氣に懸つたとき又は脚氣の徵候あるときは斷然廢乳しなければならぬ、是迄廢乳すべき病氣に就きお咄し致した中で何の病氣よりも一番哺乳兒に危險を追ぼし、生命に關係するのは此の脚氣で御座います、哺乳兒時代でも分けて幼稚な時代ほど脚氣の毒に冒され易いので、隨分是が爲め斃れる哺乳兒は澤山あるが、就中今年は哺乳兒脚氣が多いのです、デ母親は極く輕症な脚氣で、足が少し倦とか、少し痳痺とか位で、果して脚氣になつて居るのか何うか自分にも左程心付かんで立働いて居るが、斯ういふ場合に其の兒には早くも母親の脚氣の毒が感染して恐ろしき

哺乳兒脚氣を起して居ます、不注意な母親は夫れとは知らずに、ナゼ機嫌が惡いのだらう位に思つて居ると取返の付かぬ急變を來すのです

▲手後の例　哺乳兒脚氣にかゝつたとも知らず母親は、何うも二三日機嫌が惡いから醫師に診て貰はう』と哺乳兒を連れ出した其途中で遂に斃れて仕舞つたりするし又病院へ連れて往つて診察を待つて居る間に急變が來て、手當をしてもモハヤ醫師の力で生命を繋ぎとめる事の出來ぬやうな事がある、母親は左程哺乳兒が重症に陷つてるとは知らぬから今更の如く周章狼狽するがモー追付きません、ナゼならば哺乳兒脚氣は心臟痲痺を起して斃れるのだから、手後れになつては先づ恢復の見込みなき故母親が脚氣と心付たら直に母乳を與へる事を廢め、哺乳兒は醫師の診斷を仰ぐが宜い

▲哺乳兒脚氣の徵候　哺乳兒脚氣の徵候を序に說明して置かう、先づ哺乳兒が此病氣にかゝると元氣が失せて、無慾の性態即ちボンヤリして生氣がなく眼もドンヨリして仕舞ひます、夫れから顏の色も惡くなり、泣聲も涸れてヒー〳〵泣き、乳汁を吐き出し大便は綠色になり、小便の通利は惡くなる、夫れ斗りではなく上睫は半ば垂れて半開になし、何を飲ませても咽せて充分に飲み得ないのです、斯る病狀を少しでも發見したら手後れにならぬやう、敏活に手當をする事が必要です、時日を經ると衰弱を來し、乳母を廢めたところで迚も恢復は覺束ない程の危險を釀すのです、恐るべき哺乳兒脚氣は母親の脚氣の毒に冒されるので、母親が脚氣の徵候あらば直に廢乳することを記臆致すやうに願ひたい、

母乳の檢査

▲大間違ひな說　素人の方に判る母乳の鑑定法は前に述べた通り、良質の母乳か、不良質の母乳かは之によつて御判斷が附ませう、ケレども世間では乳房の形狀によつて不適當の乳汁だと速斷したり、或は乳房の形狀も惡るし、分泌も不充分だからと云つて廢乳にしたりするが、是れは大間違ひな說で決して廢乳の原因となりません、乳房の形は、少さからうが、大き過ぎやうが、平つたい胸へ押付けられたやうな乳房であらうが、夫れを以て廢乳と臆斷するのは此上もなき誤解である、斯んな間違つた考へを信じて居るのは未だ世間に多いやうだがドシ〳〵哺乳兒に吸はせる工夫をなさい、爾うすれば前にも云つた通り一種の刺戟で乳房の形狀も追々と直つて、外に故障さへなくば廢乳どころか良い乳汁が出るやうになります

▲母乳細密の檢査法無し　母乳の良否を檢査する事に就いて、往々醫師に依賴する母親がある、「如何でせう、母乳の性質は善いでせうか、又は惡いでせうか、一寸御檢査を願ひたい」と云つて來るが、之れは前に申した鑑定法以外に別に大差を生ずる檢査法は無いのです、詰まり母乳に大なる變化のあるならば、顯微鏡檢査法及び化學的檢査法でも判るが、細密なる事は一寸見た位で到底檢査し得ることは今日の醫學上ではまだ出來ないのです、然るに醫師によると「宜しい、檢査して上げやう」抔と如何にも手輕く檢査して、善いとか惡いとか判斷するが、是れは却つて醫師の不親切と云ふより外は無いのです、ナゼならば細密なる性成は爾う一寸檢査して判るものではないからで

す、手近いお咄しが先づ一日の内で引朝と夕とは既に性分の異つて居るやうな譯ですもの、一寸位の檢査で確然と母乳の善惡を判斷が出來ませうか斯ういふ醫者がわつたら却つて其の說の不確なることを標榜するやうなものです。

▲安全なる鑑定　夫れ故母親の身体が健康で、乳汁も善く出て、哺乳兒の身体に異狀なく完然の發育を遂げれば、夫れが申分のない乳汁です、即ち前に述べた通りの母乳の鑑定法で安全に良否を定める事が出來ます

▲檢査の出來る築圍　去れども母乳に大なる變化があつて異性分や、黴菌や膿球抔の含まれて居るのなら顯微鏡檢査で直ちに夫れを發見することも出來るし、夫れから又脂肪（即ち乳球）が充分か不充分か位の事は化學的檢査で見分ける事が出來る、併し斯んな大なる變化のある母乳なら直ぐ哺乳兒に其の症狀を顯はすから、母親の注意によつて母乳の良否を發見する事が出來るのです。

代乳と養育

▲乳母の乳汁　母親が廢乳すべき病氣に罹つた場合に哺乳兒を何うして保育したら宜からうか、即ち廢乳した跡の代乳法は如何なる方法を執つたらば宜からうかと云ふに先づ第一の良法は母乳に最も類似した乳汁を得るにあるので夫れには乳母をおいて其の乳汁を與へるのです、其の次ぎには牛乳で育てる事です、牛乳に次いでは牛乳を原料として製した品即ちコンデンスミルクとか牛乳粉の如きを以つて保育する方法で、此の牛乳や又は牛乳原料の製品で保育するのは之れを人工營養と云ひますが、廢乳せし場合に以上三ッの保育法中孰

れが適當かと云へば申す迄もなく善良なる乳母の乳汁に限るのです。

▲死亡の多さ時代　併し適當なる乳母を搜すのは隨分困難なこと故、乳母を置かぬとすれば是非人工營養法なる牛乳か或は牛乳製品で養育しなければならぬのです、西洋でも乳母の乳汁でなければ其の代りに人工營養法を以て養育されて居るが之は何うしても人乳の養育には及ばないのみならず健康なる發育を遂げしめるには種々の困難が生じて死亡の比例から見ても必ず牛乳や或は牛乳製品をもつて育てた哺乳兒に故障が多いのであります一体現在の人の最とも多く死亡する數は初生第一年迄の間、即ち一年未滿の哺乳兒時代に多いのです、ソコで其の死亡する病氣は何が一番多いかと云ふに大部分は胃腸の疾患、夫れに次いで傳染病であります

▲恐るべき哺乳兒の胃腸病　胃腸の病氣は大人には多く有勝ちの病氣で、左程大人は恐ろしくも感じないから、哺乳兒の胃腸病も自然此樣習慣から爾う重く思はない親があるが、之は飛んだ心得違ひです、哺乳兒の胃腸病は大人と趣きが違ひますから、決して輕々しく思もつてはなりません、デ哺乳兒に胃腸病の多さは全く營養の不完全なるので營養其宜しきを得ぬからであります、斯く營養不完全に陷り胃腸病に冒されし愛兒の斃れる其原因は何にあるかと云へば、實に人工營養法をもつて保育された哺乳兒に多いのであります、牛乳をもつて保育する場合や、牛乳製品をもつて母乳に代用する時は大に此の點に注意し、牛乳とか牛乳原料の製品を飲まして置けば故障なく育つこと、

考へて居ると遂には營養を害するに至り、取返しの付かぬ危險に陷ります、故に歐羅巴にても追々人工營養の方法を改善し講究して居るけれど、未だナカ〳〵之れが多いのです、歐羅巴に比較して日本では胃腸病の哺乳兒が多いか少ないか次にお話し致しませう。

人工營養と死亡

▲近頃乳汁の誤解多し　世間には乳汁の問題に對し大分誤解をなし居る者がある、出產の當時母乳の分泌が惡いからと云つて、分泌させる方法も講ぜず、「迚も乳母は不足だから牛乳でゞも育てませうと、拋つて仕舞ふのみならず母乳と牛乳とは哺乳兒の營養上全く同等と認めて居るか、左もなくば牛乳の方が母乳以上と心得て居る人もあるやうだ、折角出べき母乳をもつて居ながら开んな誤解をして居る方があるのには困ります、何うか斯んな心得違ひのないやうにしたい、扨歐羅巴に於ける一年未滿の哺乳兒が死亡する其の統計を茲にお咄しいたさう、之れは百人に對する割合を示したのです

索遜	二六、二	墺太利	二二、九
普魯西	一九、八	以太利	一六、七
英吉利	一五、七	佛蘭西	一五、六
丁抹	一二、八	愛爾蘭	一〇、六
諾威	九、五		

先づ統計上斯ういふ比例を得たので是れは最近の調査にかゝるものであります

▲外國に於ける引證　此の比例を見ましても何うして諾威は死亡數が尠ないか又索遜は何故斯く死亡數が多いのであらうかと云ふ疑問が起るであり

ませう、此點が即ち忠咄し致して置く必要の眼目であります、元來諸威と云ふ國は牛乳とか又牛乳を原料にした製品をもつて保育する事は土地の習慣上尠ないのであります詰り人工營養を用ゐぬ國で母乳を以て多く養育致します殊に牛乳は最上等の品に富んで居て、不良の品は極く尠ないのです、デあるから哺乳兒の胃腸病に冒される事が尠ない、然るに索遜は多く人工營養法をもつて養育するから、其の結果は統計の上に顯はれ百に對する死亡兒が那のやうに澤山あるではありませんか

▲我國の習慣　歐羅巴に於ける一歳未滿の小兒が死亡する統計は能くお解りになつたでせう、然らば我が日本では之れに比べて何う云ふ統計を示して居やうかと云ふに

百に對する一四、三

であるシテ見ると歐羅巴諸國の統計と比較して佛蘭西と丁抹との間に位して居るので、一般の成績上から見ても善良なる結果を顯はして居るのです、言換へれば日本では牛乳や牛乳製品を用ゐる事が尠なく、母乳をもつて養育する美しき習慣の存する故、從つて之れが哺乳兒の胃腸病を起さぬ原因となるので歐羅巴に比較すると、育兒上母乳の點は非難の聲が低いのであります。

◎水の効能　腎臟病の原因は水を飲むのが足らぬから、で、婦人は殊にさうだと云ふ△朝夕水を茶碗に一杯づゝ飲むと、日中心が爽かで、さうして大便の通じが好い△然し、食事の前後には成るべく飲まぬ方がよろしい、それは消化機能を妨げるからだ△それで食前三十分ほど前に、水道の水か井戸水の良いのを一盃づゝ行ると顔の色好くなるし、第一身體を丈夫にする△下手な茶よりは水の方を飲むやうにせよ、と某醫士の談

短歌募集

△課題　隨意
△〆切　毎月末日
△發表　本誌上
△賞品　三光に粗景を呈す
△選評　眞宮起雲
△投稿　用紙隨意淸書して左記の所へ送らる可し
但添削返稿を望まるゝ方は往復葉書又は切手封入のこと

「伊勢國白子局下稻生みどり會」

短歌

眞宮起雲選

（天）　中村鶴聲

うつくしきおん歌のごと一つ〳〵光をつゞるしら玉の瀧

評　悶え持つ闇の子は胸を照すらんおん歌にたとへしは妙

（地）　玉尾紫水

山住みやあした草戸に風かをる糸蘭の花つゆうつくしき

評　幽趣、侘居の人何となく氣高し

○　吉川紅花

若人がうたげ催す夏ざしき青葉すゞしうひる小さめする

さつきの夜湯の氣眞白に谷をうづめ星遠くしてやま子規

○　松田小波

うらやさし醜草しげる夏の野に異香薫ずる小百合眞白き

新嫁が早苗とる唄半にて笑みくづれたるなよすがたかな

○　清水光風

アゝ杜鵑大竹藪をよこさまに嵯峨へ一里はひと聲にして

夕螢姫がたもとをそとすべり人呼ぶかたと船よりふれへ

○　佐藤翠川

高麗の瓶の古色に忘れたり菖蒲むらさきうたにすべくも

笑めば子の頰照り林檎の紅と玉の齒しろう甘きつゆちる

○　森白浪

き〻馴れし聲の船追ふすゞみの夜月に反きて掉とりし哉

○ 大西益子

悲みの運命に泣くも女てふか弱きせちとうまれしゆゑに

○ 平岩學洋

住みかへて蛙きく夜の夢ごゝち古里思ふうたおほく成る

○ 加藤六花

五月雨や青梅おつる草むらに黒き胡蝶のいきざしあらき

○ 田中不二

うす絹に薔薇の紅をとつゝみ船流す子になげても見たき

○ 紅花

亂れ髪風にふかせて水の間ゆけば老い鷺や朝ほとゝぎす

○ 鶴聲

優うも玉繭出でし蝶々のあさ眉つくるみどり小まどに

○ 淡月漁郎

夏旋や天幕張る子の頰はやせて朝雲うつしゆふべ歌練る

玉とちり奇火と結び宇治川に螢古武者のたまとも見ゆる

○ 林靜子

水底の眞珠ことぐ光り得てわが船あかし後の夜の月

たどります夏野まじろの露草に又も御袖の濕りてやあらむ

○ 鈴村仙子

朝月のしろき光りを身にしめて青葉の泉めぐりても見し

夏あした逍遙きよき眞砂路に同じ調べのなみをきくかな

○ 吉川紅花

薄絹に雪の白肌玉すきてゑめるに似たりあさもや小百合

強ひられて緒琴とる夜の夏座敷さし入る月の餘りに明き

* ○ * ○ *

母なくば我や冷たき洞に入りて

朝夕を杜鵑きかむ

夏花や小さく眞白き光りなけて

世に悶え持つ子の胸に入れ

青柳の枝も動かぬ夕ぐれに

かずそふまりのおとものどけし

（加藤千蔭）

無聊吟社句集

無一庵　鹽野奇零

道端に風呂を焚きけり麥の秋　江南
夏の山雲の中より水の音　同
晝暗き祠一宇や夏木立　千代女
猿を背に假寢の人や夏木立　同
羅や舞の女の紅扇　嶺松
砂白く根上り松や磯涼し　同
石刻む寺の後ろや閑古鳥　峯月
夏草や草鞋の濡るゝ朝の道　同
子子やぶつ〳〵と湧く水の泡　古泉
物賣を取卷く道の日傘かな　同
若竹や寺にこもりて寫し物　其聲
百合咲くや草の中なる道祖神　みつ子
山越えて重たき足や夏かすみ　同
螢狩二た手になりて田甫道　仙人
月出でゝ篝火白き鵜舟かな　同
麥藁の帽子も古りて小役人　芳山
雨に濡るゝ石燈籠や蝸牛　同
年若き銀行員や夏羽織　同
手をのべてマッチさぐりぬ蝙の外　同
笠取れば紐の跡あり顏の汗　南庄
竹植て月のさしけりガラス窓　同

氣味惡き無住の寺や蚊喰鳥　同
下駄で踏む淺瀨も出來て夏の川　ます女
嶂啼や松から晴るゝ俄雨　學洋
子心に年寄も出てほたる狩　同
旅をして見れば淋しき閑古鳥　同
旅僧の晝寢の笠を羽蟻かな　同
磯馴の松風涼し夕月夜　曉霞
夕立の跡心地よし田甫路　同
蓮の香や白衣の行者寺に入る　同
初茄子赤前垂に二ッ三ッ　同

追加　無一庵奇零

藤蔓に片手伸して苦清水
夏の川漁師の妻の丸はだか
短夜や旅に明けたる若夫婦
晝の雨乾く匂ひや夏の菊
軒先に風呂焚く煙や蚊喰鳥

ぶらんこや櫻の花を持ちながら

（一　茶）

手輕料理覺帳

石井泰次郎

これは料理の本をよむにも、料理をするにも調法なことを記したるなり、人の記しおかれたるを、ふたゝびぬきいだしてしるしたるなり、

○むし栗

むし栗の仕方は、かちぐりの品よきを一夜、水にひたして、翌日やわらかにならば、鍋に入れて、（栗一合に、水を二合のわりに入れて漬けおきたるまゝ、其まま鍋に入れてよし）炭火にかけて煮つめて、水なくなる時にとりあげてつかふなり、この栗は、砂糖、みりん、しほにて味つけてつかふなり、其ほかにはくゞしてつかふもよし

○葛煮こんにやく

こんにやくのほそく糸にしたるを一寸ゴヽに切て水であらひて、百匁ばかりを、鍋に湯を煮たてた中に入れて、十分間以上湯煮してから、取上て、湯をきりて、別の鍋に入れて、醤油五勺、砂糖十匁を加へ、水一合、入れて能く煮て、煮上りたる頃、葛粉十匁を水にてとかしたるを、中へかきめぐらしながら入れてまぜて、鍋をおろして皿にもるなり。

○あげ午蒡

午蒡の皮を洗ひて、庖丁刀の背の方にてこきて皮をとりて、三寸ばかりに切て、湯煮よくして、煮あがりたる時、串の先にて肉と皮の間をさしめぐらしてすきをこしらへて（但一方にたてに庖丁刀目を切入れおくべし）切目の所よりぐるりと皮のみをとりて心を去りて、皮の方を三分ぐらひゴヽはす切に切て油にてあぐるなり、湯煮する時に、

酢を少しさして煮ると、色白くなるなり

○青物の黒あへ

何にてもくろあへを作るときは、黒ごまを、焙錄にていりて、擂盆にてねばるほどに能々すりて、馬尾篩にて裏にのせて木杓子にておしてこして、それを鍋に入れて、みその甘き味のものを、すりて、こしたるを合せて、みりん、砂糖、水とを合せて、炭火にかけて、杓子にてねりて、これにてあへるなり、其合せ量は、左の如し、

黒胡麻　一合、甘き味噌三十匁、砂糖三盃　二十五匁、水一合、みりん三勺

○胡麻煮れんこん分量

蓮根一本（小口切にして湯煮して、醤油、煮汁、みりんにて煮たるもの）○黒胡麻一合、砂糖二十五匁、みりん三勺、水三勺、合してねりたる物の中に蓮根入れてあへる、下煮の分量は左の如し

かつをにだし一合、醤油三勺、みりん二勺

○胡麻酢のこしらへ方

ごま酢のこしらへ方は、白ごまをいりて、すりて、毛ずひのうにて裏ごしたるを、酢の煮かへしたるに合せ、みりんを合せたるものなり

ごま十匁に、煮かへし酢五勺、みりん煮切二勺

のわりなり、

煮かへし酢といへば、酢一合ならば、鹽一匁のわりに入れて、鍋に入れて煮たてたるをいふなり、みりん煮切は、一合のを、八勺になるほど煮切たるをいふなり、

○むぎ粉やうかん

麥ごがし一合に、白角寒天一本、水二合、砂糖六十匁、鹽一匁、水一合五勺、

麥こを、鍋に入れて、砂糖をとかしたるを入れて、鹽を加へて炭火にかけて木杓子にてねりて、十分間の内ねりて、

白角寒天を水にて洗ひて、別の器に水を入れ其中にひたしおきて、やわらかになるを取出して、しぼりて、こまかにきざみて、鍋に入れ、水二合を加へてよく〳〵煮とりして、箸にてかけて見ても少しもかたまりかゝらぬ樣にならば、

馬尾篩にて、前のねりたるなべの中へとこしこみて、再び十分間ほどねりて、うすき箱に流し入れて、ひやかして、かためて、四方を串にてすかして、四方のよこをうちてうかして、ふせてとんとんたゝきて取出して切方して皿につくるなり、

▲富有の乞食　羅馬の都にて教會にて賣ひ歩きたる一人の乞食此程死去したるに驚くべし其遺産金參拾七万圓に達し、遺言書には三人の子供に此金を分つべしと記しありたりと更に可笑しきは此三人の子供は父が斯程の金持なりとは知らざりしといふ

小兒改良服

東京府第一高女教諭　岡本ちか子

子供の着物に附紐をなし之を固く結ぶは、衞生上よろしからぬ事にて私が申上ぐるほどでも御座いませんが、又腰揚の澤山あるのも着にくゝて、且つ夏向などは、暑さも多く感ずるかと思ひます、時下丁度暑さに向つて居ますから、左に簡單なる改良服を御紹介致します。

四五才女兒改良服

用巾　並幅一丈一尺九寸

寸九
人
公
頃
身
袖
ラウビオ
袖
公
ラウビオ
ビオ
公
公
公
裙
裁切寸法
裾丈　一尺四寸
袖丈　六寸二分五厘
帶丈　二尺
帶幅　二寸五分
袷丈　一尺九寸
身丈　六寸
袷肩幅　一寸八分
袖幅　二寸八分

出來上り図

縫ひ方

袖、袖下を縫ひ、袖口の處は縫ひしめて、シャツの樣に「カフス」をつけるか、或は襞を取りましてリボンをつけてもよろしう御座います。身頃、四つ身着物とおなじ樣に、脊、脇、衽、衿などを縫ひますが、身丈が短う御座いますから衽下りは二寸五分位に致し、袖附は袖山の所に「ギャダ」を寄せて縫ひます。

次に肩揚をなし、帶附の處は其小兒の胴廻りより少しく弛め加減に縫ひしめ置き、之を表裏の帶にて挾みて返針に縫ひます

次に下布を縫ひ合せ（此時前となる所四五寸明け置き其處に見返をつけます）裾を八分位の幅に三つ折紵にしなは三寸位上りし所に二三段「タック」を致します、（これは揚にもなり又飾にもなります）帶附の處は帶の丈に縫ひしめて帶の表のみ附け裏は紵附けるのであります。

次に上前の帶先の裏側に「ホック」を二ヶ所附け下前の帶の表に閂留を致しまして、前の「ホック」をかけますなは上前の脇の內側と下前の帶先とに細き紐を附けます、又飾として前の合せ目に「リボン」を附ますと可愛らしく見えます。

▲昆虫類　は世界中に大抵二十四万種ありといふ其內の或るものは頗る小きものにて四千匹を集めて漸く小き砂粒位の大さとなるものありといふ

▲人命の必要品　はいふ迄もなく空氣なるが人は五分間空氣なければ死し、全く眠らぬ時は十日にて死し又水を飲まぬ事一週間にて死し、食物に至りては境遇次第にて人命を保つ度合は異れりといふ

▲印度の寡婦　印度には幼女の結婚するもの頗る多く一度夫を失ふ時は再び他に嫁する事出來ざるなりと今全國政府の最近の調査によれば一才より三才迄の幼女にて寡婦となれるもの大凡一万九千人ありとぞ全體にては二千五百万人の寡婦印度にある割合なりと云ふ

婦人と親族法

太田英隆

第四章　親子

元來親族の關係は親子から生じたものであります。それでありますから、親子の關係は親族の間柄の基礎であると云へます。又皆さんもこの親子の間柄に就きては充分御存じの必要があらうと思ひます。只法律と云へば、小六ケしい理窟の學問の樣に思はれますが、前にも述べました如く、親族法は習慣道德等に大なる關係あるばかりでなく、人としては是非知らねばならぬ密切の關係があります。殊に婚姻とか親子とかの規定になりますれば、直接御婦人方に重要なる點でありますゆへ、篤と御覽下さることを希望いたします

御承知の通り親子の關係にをきましては、自然

血の續いたものと、血の續かないものとの二種あります。血の續いたのは實子でありまして、血の續かない即ち法律に因りますのは養子であります。此他繼父母と繼子、嫡母と庶子との關係のやうに、法律がかりに親子間と仝じ關係をもたせたものがありますが、是等は元來姻族の關係があると云ふまでゝ、唯僅に家族制時代の餘習として親子に準じたものに過ぎません。

第一節　實子

實子と云ひますのは、夫婦の正當の交通に因り生れたるものとさうでないものとの區別に從つて。嫡出子及私生子の二つに分れます。嫡出子は夫婦が婚姻して後生た子であつて、私生子は婚姻せずして生れたもの、即ち野合によりて出來た子を云ひます。それで父の知れない子のみを私生子

と云ふので、婚姻外の子でも父が知れて之れは私の子であると云ふことを認めたなら、之れを私生子とは云はずして、庶子と稱するのであります。

第一款　嫡出子

嫡出子と云ふのは前に述べました通り、正しき婚姻によつて生れた子であります。それで子が嫡出子であると云ふことを主張するには、先づその母の胎内から生れたこと、次に其母は自分の父であると主張する者の妻であること、換言せば父母の間に婚姻が成立したことを證明せねばなりません。併しながら、この問題は實際上六ケしきことがあります。何故かなれば、父母の婚姻の成立や母の胎内から出たことは事實としても、母の夫が下した種であるか、又は他人の種を宿したかと云ふことは立證が極めて困難であります。こんなことを云へば、少しく極言だと申されませうが、實際世間に時々あることで法律上の問題となることですから、あながち一の理論のみに傾いた言とは云はれません。元來親子の關係は造化の微妙なる作用でありまして、父母以外に誰の子であるかは知ることが出來ません。然らば子であるか否かは、父の承諾に委すべきでせうか、父の承諾ばかりにすれば父の惡意の犧牲とならねばならぬ危險があります。そこで法律は、妻が婚姻中に懷胎した子は（設令他人の種を宿しても）夫の子と推定します。何故かと云ひますと、姦通は寧ろ法律上推測すべきものでないからであります。

斯く申して來ますと、少し考のよい御婦人はこう云ふ疑が浮びませう、婚姻中に懷胎したものは何人できても夫の子と推定すれば、例へば他の男

子の種を懐胎した婦人が嫁入りして、其翌日出産しても夫の子とせねばならぬことになるが、そんな不條理なことは道德上許されないではないか」人は之れ位の考を起すやうな腦がなくては駄目です。いかにも御尤千万なことで、こんな場合に夫の子とされた日には夫はたまつたものではありません。

だがさう云ふ心配は御無用です。法律はちやんと考へてあります。即ち婚姻が成立した日から二百日後、又は婚姻の解消又は取消の日より三百日目以内に生れた子は婚姻中に懐胎したものと推定すと定まつてゐます。何んと一刀兩斷とはこの事ではありますまいか。

第二欵　庶子及び私生子

私生子と云ふのは正當の婚姻せずして生れた者を指したので、若い男女が一時の出來合ひから生じたのに外なりません。そうして庶子とはその私生子を認知する父がある時の名でありまして、一種の私生子に相違ありません。只違ふ所は、私生子は男が誰人なるか知れない時で、庶子は私の子であります と云ふ男の知れて認めた時なのであります。佛國の立法例では、近親間に生れた者や姦通で出來た子は、一般の私生子と待遇を異にしてありますが、日本では斯んな區別はありません。何故かと云ひますと、成程此等の父母は亂倫の過失はありますが、その子供には少しも罪がありますまい、その罪のない天眞爛熟な子にまで待遇を異にするのは、親の罪を子に嫁するものであつて、甚だ酷な仕方と云はねばならないからであります。

私生子の認知に付きまして、民法第八百二十七條に「私生子は其父又は母に於て之を認知することを得父が認知したる私生子は之を庶子とす」と云ふ規定があります。是れを讀んで見て一寸變に觀じるのは「母に於て之を認知する」云々の言であります。父が認知するのは至當でありますが、現に自分が分娩した子を私の子であるないと云ふのは如何にも受取りかぬる規定のやうに思はれます。併し、能く考へて見ますと、世間には母の知れない子があるのであります。例へば棄子とか又は出生の屆出をせないやうなのは法律の眼から見れば母なし子であります。尙ほ詳しく云つて見ませうならば、茲に身分の尊き娘があるとします。名譽ある人でなくても數日の後ある所へ婚姻すると云ふやうな娘でもよろしい。この娘が不行儀者であつて今子が出來たとして御覽なさい。名譽ある娘は己れの非行を恥ぢ、嫁する娘は婚姻の破談を恐れて、戸籍吏に出生屆をせないで匿すか、又他人の子と僞りて之を屆出でるやうな手段をするか、極端に論ぜば、其子を棄てるやうなこともないとは限りません。かう申上げれば本法が特に母の認知を規定した所以がお解りになつたでせう。

認知をする方法に、戸籍吏に屆出でるのと、遺言によるとの二種があります。このことは戸籍法（八十條乃至八十八條を參考）にあることですから茲には述べません。そうして、普通の場合の認知は父又は母たることの任意の自白であつて、子の承諾を得ることを要せないのでありますが、成年の子の場合は勝手には參りません。是れは中々氣

のきいた規定でありまして、社會の情實を餘程參酌したものであります。例を擧げた方が素人方にはよく解りますから縱令で申しませう。茲に親の知れない人があるとします、この人は高位高官に登つて且つ社會に大人望のある人であつた時に、茲に突然親が顯はれて來て併も其親は前科數犯監獄に入ること數度、今は盜賊の隊長と云ふやうな者でありでもしたなら、高位高官の人は如何に不利益でありませう。必ずこんな親に認知して貰ふことを欲せないでせう。若しこの時に親に認知の權を與へて子は飽迄服從せねばならないとしたなら、害あつて益のない法律となりますから、この時は、實際の親であつても子が承諾せない以上は認知することの出來ないのであります。この點に就きては、宗教家や倫理學者の眼から見れば異論

もありませうが、社會の實際より見て首肯せなければなりません。それに親は子を產めばすぐ屆出づるが至當です。子が產れたのを屆出でると人に面目がないからと云つて自分の子にせないで、その子が高位高官に成つたから實は私の子でありますと屆出でるのは少し虫のよ過ぎた話で、子に對し親の義務を盡さないのであります。この時に子の意志に反してまで鬼の如き親を保護する必要がありませうか、少しく理屈めきて來ましたが、實際さうではありませんか。

一旦私の子でありますと認知した以上は、自由に之れを取消して私の子ではありませんと云ふやうなことは、民法第八百三十二條で許さないことに定めてあります。

之れは尤も至極で、一旦私の子であると云つ

ぬ者が又私の子でないなどゝ云はれた日には、その子は勿論其他の利害關係人に至るまで不慮の損害を受けねばならないことが始ります。凡て世の中は絶對的のものではありませんから、この原則にも例外があります。即ち之れに對する反對事實の主張であります。

右の場合に、私の子でありますと云つた父又は母が正直な人であればよいが、若不正直であつて自分の子でもない者を自分の子だと云つたときは認知された子はとんでもない迷惑で、知らぬ他人と親子の關係を生ぜねばなりません。それだから、この時には其子又は利害關係人は、認知に對して反對事實を主張して認知の取消を裁判所に請求することが出來ます

雜錄

●女子高等師範學校彙報

▲第六臨時教員養成所入學式　豫而詮考中なりし該所英語科入學志願者中の合格者三十名に對し去月十日同校大講堂に於て入學式擧行せられたり

▲修學旅行　同校理科四年生は神奈川縣三崎臨海實驗所へ文科及技藝科は日光地方へ何れも修學旅行を行へる由

●模範的校舍　來年四月上野に催さる可き勸業博覽會に出品す可き東京市の教育品中には模範的校舍とも稱す可きものあり。其建築は大体凹な形にして托兒所、幼稚園、特殊尋常小學校の三に區畫し小學校にのみ二階を設け其の設計は左の如くにして托兒所は獨逸の新計畫に則りしものゝ由之が建築費は約一萬六千圓の見込なり

▲托兒所　遊戯室二十坪五合、寢室五十七坪合、母の控室兼更

衣室八坪、保母室八坪、治療室及醫員控所八坪、浴室六坪、炊事所八坪、食堂八坪、洗濯所二坪、幼兒及嬰兒遊戯場約二百坪（植物園を含む）、小鳥兎等の家畜飼養場約十六坪、嬰兒砂上遊戯場十六坪五合、（此部分には雨除を施す見込）

▲幼稚園　保育室二個各十二坪　外廊下八坪　押入一坪半、便所二坪、土間（入口）二坪、遊戯室二十三坪五合

▲特殊小學校　教室十五坪七合五勺つゝ、四室教員室八坪七合五勺、廊下十六坪七合五勺、便所八坪

●女學校生徒服裝制定　近時一般女學生の華美は漸く其の頂點に達し是非共之が矯正の必要を感じ文部省に於ては先づ直轄及各府縣立女子師範學校及高等女學校の服裝を一定せんとし、此れが可否に付き各當事者間の意向を問ひ合せ中なりしが、之につきては多少の反對者なきにあらざるも、一般の當事者間に於ては服裝の制定を希望せる模樣なり、之に關して松本文部書記官の談話なりと云ふを聞くに左の如し

前大臣の際某女學校長より、女生徒の服裝制定に關し意見書の提出ありたれば、一應是れを調査し、尚ほ續て各地方廳に向け諮問を發したるが开が意見に徴すれば諸種の異見もあれど、大體に於て女學生の服裝は筒袖に袴を善しとし、勿論可成品質は質素なるを用ゐるとの事に一致し、同省も其說を執るに略内定し、追て訓令或は通牒に及ぶ筈なりしが、爾後大臣交迭し、未だ勿卒の場合是れが發表には到り難く、且其の實行には種々の困難もあり、省議も未だ一定するに至らず云々

蓋し此服裝改良も云ひ易くして行ひ難きものゝ一つなる可し。吾等は姑息の改良を實行せんよりは寧ろ男子の洋裝に倣ひて女子にも洋裝を勸めんことを希望す。洋裝にも非ず和裝にもわらざる綿羊の改良服は徒に人目を側たしむるのみにして女子の本性にも戻る所多し。人或は洋裝の費用多きを云ふ。然れども是は驕れるが爲めのみ吾人の見聞する處に因れば兒女の洋裝の如きは却つて經濟的なるを認む。

●都會の教育　谷本博士は大阪市教育會總會に於て標題の如き演說を試まれたり、左に錄するは其大要なりと云ふ。

▼都會教育者の覺悟を要す　日露戰爭後に於ける教育の好果にあ

こがる〜都會の教育者は實に一層の深き注意と覺悟を要す特に漢堡と其膨長の趣を同ふせる大阪市の如きにありて今の日に於て試みに教育の主義を問はゞ之に明答し得るもの果して幾人ぞ

▼教育者は一隻眼を備ふるを要す　彼の死せる教育學や煩鎖なる教授法以外に一隻の活眼を有せるもの果してありや、實に今後の教育は、只天賦の才能を發達せしむといふ如き主義のものにあらずして、社會的には常識を養成し、個人的には天才を煥發せしむるを要す。即ち

▼教育とは各個人をして境遇に適應せしめ、自家の面目を維持して着々擴充の効を奏せしむべきものたり、此の擴充と適應とは實に大切なる教育上の概念にして、擴充ありて適應あり、適應ありて擴充あり、擴充は理想にして將來に渉り適應は境遇に屬して現在にかゝれるが如きも畢竟自己より見て擴充といひ、社會より見て適應のみ、而して天才とはこの擴充に偏せる傾きあり、常識とは適應に長ぜるものなり、

▼社會教育學の流行　近時社會教育學の流行と共に世はいたく適應に過ぎて擴充を遺却せんとするが如き觀あらざるか、更に

▼實際的方面　にありては都會は常に個人の面目を沒却せんとする諸種の誘因甚多し、人烟の稠密、空氣の不潔、生活の困難、市街の喧騷　職業の苦痛、風俗の淫靡等主として身体的に個人を沒却するの因となり、在住者の不定轉移は隣保相助の念を生ぜず、秩序を重んずるの精神を害し生存競爭の甚劇は家庭を離散し、浮浪の徒を生ずる等精神的に個人を沒却せんとする惡因亦甚乏しからず。特に都會死亡者の多きは實に教育者の寒心すべき所にして衛生上の大注意を要する所とす、而して都會の教育者が常に力强き抵抗力ある適應を要するは喋々を待たず。試みに言はゞ

▼適應九ヶ條

一、學校を力めて衛生的の土地に建築して半日にても小市民の健康を圖るべきこと

二、遊戯体操の奬勵を一層盛にすること

三、清潔と美觀を養成するに注意すること

四、教室若くは校庭内に適當の設備をなし或は屢郊外に遠足せしめて自然を好愛せしむること

五、屢平易なる學生の植民旅行(夏期學校の類)を行ふこと

六、簡易生活の娯むべきを知らしむること

七、禁酒貯金の奬勵

八、宗教的教育の必要

九、相身互ひの社會的教育を施すこと

▼擴充に就ては　單に『眞心に從ひて奮鬪する眞の勇氣ある國民を作る』を以て旨とすれば足るべし。

▼教育者自身に就ては　自己の選せる左の十三條の簡單生活を坐右の鍼とし、以て縱横に適應活用せば庶幾くば都會教育を施すに於て過なきを得んか

一、冗らぬ考休むに若かず、

二、冗らぬ心配せぬがよし、

三、冗らぬ不平は速かに忘れよ、

四、冗らぬ見榮を張らぬこと、

五、冗らぬ世辭を言はぬこと、

六、冗らぬ證義に手間隙つぶすな、
七、冗らぬ品物を買ふな、
八、冗らぬ道具は一切無用、
九、冗らぬ勘定は却て損、
十、冗らぬ虚名を張るな、
十一、冗らぬ交際成るべく謝けよ、
十二、冗らぬ高慢最わるし
十三、冗らぬ小言は言はぬがよし

●米國の女庭訓　ヘンペックリドハスバンドを以て有名なる米國婦女子の氣風には流石の米國人も堪え兼ねしものと見へ某米國新聞には此程「娘の教育法」と題して左の十三ケ條を列記せりと云ふ

採つて項門の一針となるなからんか

(一)女は食物を調理する事を學ぶべし(二)洗濯とボタンを縫ひ付くると及び自己の衣服は自己にて洗ふべし(三)パンを燒く方法は是非之を學ぶべし(四)一弗は百仙なる事を知り結婚後は良人の收入と自己の出費とを計算すべし(五)借金を以て衣服を造るは恥辱なりと知れ(六)強て美人ならんとして肺病患者らしき姿とならんよりは「健全は美なり」との原則を忘るゝ勿れ(七)買物を爲す時は一仙二仙を爭ひながら無益に香料に費消する一弗二弗の大なるを知らざるは大なる誤なるべし

●音樂學校の官費生　東京音樂學校は目下八分科に別たれ夫々教授を爲す規定なるも或學科の如きは一人の生徒をすら有せず音樂の發達上頗る寒心すべきものあれば文部省に於ては此程これが改正に着手しつゝありしが愈々今回官費生を設くる事となし大に斯學の奬勵を期する爲め不日官報を以て之れが規定を發表する由

●疥癬の新療法　醫學士にて軍醫なる山田弘倫氏の談話なりと云ふを聞くに是迄疥癬や其の他皮膚病に用ひる藥は大抵軟膏と云ふ軟かい塗藥が重にて全身に用ゐる場合には塗たばかりでなく其上藥の剝れないやうに繃帶をかけるとか何だの彼だのと其費用は少からず殊に軍隊などに於ては皮膚病位で二三週間も入院させて療治するなど餘り手數が掛つて馬鹿らしきより練習させながら病を療す新しい藥があるまいかと種々工夫を凝し先づ隊の殘飯にて粥を拵へ之を潰して糊となし之に皮膚病に功能ある藥を入れて塗つて見た所繃帶が入らず藥が剝れず甚だ好結果であつたけれど粥に煮て潰して漉すと云ふ手數が掛るから同じもので手數の掛らぬ米の粉にて糊を造り腐敗を防ぐ爲め○、五プロセントのサルチル酸を

入れたるに一封の塗藥の原料を造くるに費用は僅に金五厘に過ぎません、さて安値くて簡便で害のない原料を此の如くにして發見し之に疥癬に利目があるとて昨年四月にブルンス博士が發表した硫黄軟膏を右の新原料へ原料の百分の二十の割にて入れ之を患者に用ひて見た所是迄三四週間位かゝつたのを只た三四回塗つて療してしまつたが此藥の塗方が大切なり只だ塗ただけでは利目が少なきゆゑ疥癬を擦破つて藥を塗擦むのが肝腎なり若し出來物の皮の破れない時は針の先にて突破ぶり此藥を塗擦むべし次に注意すべき事は此藥を塗りたる中は着物を着換てはならぬ硫黄氣のついてる着物の方が病氣に利目があるからなり全く治つた上で湯に入り新しい着物を着換るがよし

● 水彩畫夏期講習會

市内小石川關口駒井町なる春鳥會にては來る八月五日より三週間、府下西多摩郡青梅町大柳分校にて水彩畫の講習會を催ふす由知人より報知あり。講師は大下藤次郎外二名にて會費は記名料、講習料共貳圓の由

● 女子園藝講習會

同會も來る八月一日より開催の筈にて期限は一週間專ら女子の家庭的園藝に就て教授すと云ふ。課目は果樹、蔬菜、花卉、園藝、料理等にて講習料二科迄一圓五十錢全部二圓五十錢なり。但し申込の際五十錢豫納するを要すと云ふ

◉ 菓子と小兒病

小兒に與ふべき飲食物の撰擇は殊に心を用ふべき事今更云はでもの事ながら近來の小兒の胃腸病は砂糖製の菓子を食ひ過ぐるより起るもの十中の八九を占むる有樣なれば其由つて來る處を探るに、元來豆類を原料とせる砂糖澤山の羊羹や餡類は小兒の最も好んで食するものにて世間の親達も小兒の菓子は此類に限ると思ひ居れど是れ大なる誤りにて此種の菓子は胃に入りて酸敗し易く乳酸と云ふものを生じて消化器を刺戟し甚しき害を與ふるものなれば平生此樣な習慣をつけたる小兒は、爲に不治の慢性胃腸病を起し取り返しのつかぬ事になるもの尠なからず、されば小兒には心して此種の砂糖製の菓子を與ふることを廢めビスケットや麵麭などを與ふるを良しとする由

新聞と雜誌

●日本の家庭と米國の家庭と

日本では家を本位とし、米國では個人を本位としてをりますから、米國では子供の無い場合に家の斷絶することなどには少しも頓着しない、結婚も米國では無論本人の意思通りにさせるが親との同意見で定めるのが普通、親の贊成しない結婚をした場合には財産を少しも與へぬと云ふ制裁が設けられてあります、日本では細君や子供が過つて器物を毀しても直ぐに怒鳴りつける夫が澤山あるが、米國の中以上の家庭ではこの叱る怒ると云ふことをせぬ、彼の有名なブライアン氏の令息が一日父の書齋の高價なる窓を過つて毀しましたが氏も夫人も此事に就ては一言も云はなかつた處が翌日令息は學校から歸るや昨日の過を謝し、毎日家庭に於て多少の働きを爲して賠償するとを申出て、ブライアン氏は非常に喜んで其請を許したと云ふ、斯の如く叱らず怒らず反省を促すのが彼の國の家庭に於る教育の方針である（日本婦人八十號安部磯雄氏）

●報知新聞　女子の教育と題して論じて曰く家庭に於ても社會に於ても男女は其の天性に從ひて分業し協力すべくして同一の事務の上に競爭せんとすべからず故に高等女學校の教育に至りては中學の教育と大に其趣を異にせざる可からず妙齡の女子をして精神を過勞せしむるは母性機能の發育に害あることは學理と經驗との明證する處なれば女子の教育は高等女學校にて完結するを可とせん女子は兒童を善化し美化するに適すべき家庭を主宰せむために穩健にして調和ある教育を受けざる可からず而し多少の例外あり家に富あり才に餘りある者が社會の表面に奔走し交際場裡に翱翔するも何等の妨げなかるべく殊に賢母良妻なるの修業をつみ其本務を果して餘力を以て男子の業務を助くは立派なる事なり

●男女學生交際論　一體人は社交的動物であるから、學生と雖も亦この社交といふことを要求するのは當然である、而して社交にて同性間の交際があると同時に異性間の交際もあるから、この社交慾のために男女學生が相互に交際せんと欲することのあるは事實として認めなければならぬ、併し事實であるから必ず是れを奬勵すべしと云ふ譯ではないが、先づ其の道德的價値を能く考へてからならば決して惡いことではないと思ふ、今日の如く利害得失如何を學生そのものが他に向つて問ひ、又た道德家先生に尤めらるゝが恐ろしいやうなら交際をせぬがよい、要するにして善いか惡いか分らぬやうなことは後廻はしにして絶對的によいことをするのが宜しいと思ふ、學問を勉め、德育に志し、運動を勵むが如き必然してよいことが澤山にあるのである（中央公論六月號、建部文學博士）

●交際科を設けよ　今日の高等女學校程度にては、年齡體格こそ既に結婚の資格もあり、且つ我國の習慣として女子十七八歳になれば、早く結婚を急ぐの風があつて、卒業後直ちに結婚するもあれど、未だ學問、人格に於て、男子と均衡せざる恨あるのみならず社交の智識に至つては全くゼロである　之れを補繕するものは家庭の母の責任なりと云ふ人があるが、今日の家庭の

母では固より左樣の教育は賴むべくもあらず、到底之れも學校教育に待たざるを得ない、故に應急當面の處置として、先づ四方の女學校に、この交際の一科を設け、新時代の進歩を助け、新家庭の悲慘を救ふことが必要である（家庭雜誌六月號、中尾清太郎氏）

●日本婦人論　現今日本に於ける中流以上の家庭には有名無實の主婦が多いのである、最も社會の組織やら家の格式と云ふやうなことが自然婦人を無能にするのであるか、是れは甚だ面白からぬ現象であると思ふ、元來其の職にあるものが其の任を盡し得ぬとすれば、それは即ち飾物である、何んか公共團體等の事業には時に飾り物の必要があるであらうが、最も活動を要する家庭に於て、若し主婦が無能で飾物である時は、其の家族は決して趣味ある生活をなすことが出來ぬのである、從つて是れより生ずる弊害が社會を亂す原因となつた實例が甚多いのである、故に主婦となりたる以上は、是非是れに相當する實力を養はればならぬことゝ思ふのである。

▲活た頭の婦人　要するに自分は日本婦人が今少し活きた頭を有つやうにならんことを望むのである、自ら爲さんと決心さへすれば自然勇氣も能力も出るものである故に例令は中流以上――華族社會に於ても、主婦としては家事萬端を自分で支配し、子女の教育も充分自分で出來る、乃ち活眼を有する婦人の出て來らんことを祈るものである。

▲己を研究せよ　是れと同時にまた中流以上の婦人は社交の花であるから、交際術に於ても巧みであらねばならぬ、然るに日本にての園遊會や、宴會等に行つて見ると、婦人は、婦人同志、男子は男子同志相集つて少しも話しの調和がとれぬ爲め甚だ寂寞である、斯ンな調子故自然賤業婦を席に上すやうになるのである、兎に角今は婦人の過渡時代であつて、日本婦人は徒らに西洋風を眞似てもならず、また固有の昔風のみでも居られぬと云ふ場合であるから、婦人自ら婦人問題を研究し、活眼を開いて自己の立場を定むることが第一であると思ふ。

（愛國婦人伯爵柳澤氏）

●通學と寄宿　各々一長一短はありますか、先づ家庭より通學する方の利益を云へば第一愛家思想を養ふことが出來、常に家に居るに依つて家族の必要を悟り家庭の趣味を感じ、家族相互の義務を知り、親子兄弟間の愛情を濃かならしめ、家政經營を目睹することが出來後日妻として母として家政を整理する場合に少なからぬ利益を感ずるに違ひありません、寄宿の方の利益は、專心學問に從事することを得、起床から就眠、三食、入浴、運動等總て秩序の良習慣を養ふの利益がありますが、是れは家庭に於ても規律の正しい家では出來ることでありますから、何方が利益が多いかと云へば、家を愛する觀念も養ひ、家事も覺へ、勉强も出來る通學の方が利益が多いと思ひます、故に寄宿舍に居るものでも、夏季休暇などには家庭に歸へると云ふことが必要であります（ムラサキ六月號、後閑菊野氏）

日本家庭辭書の一節

西山恕治

あい(愛)、愛とは自己の好む對手に向つて善意なる好意、親切心を以て待遇するを謂ふ、人に愛てふ心あるが故に家庭の平和、國家に安寧秩序を見るなり、實に社會は愛の鎖もて固く連結されたる團體なりと謂ふべし。自己を愛するを愛己(利己)と謂ひ、他人を愛するを愛他(利他)と謂ふ此れ倫理學上、利己主義、利他主義(公衆利用論)の分るゝ所以にして、利己、利他をよく調和し其の輕重前後を誤らず、以て偏愛に陷らざるは道德的行爲の理想なり、又、父母の子に對する愛に至つては決して溺愛に失せざるを要とす。尚は(本書四頁)あいじやう。(愛情)の項を參照すべし。

あいかしん。(愛家心) 人には父母を慕ひ、兄弟を憶ひ、己が妻を戀ふる心の外に尚は其の家を思ひ、愛するの心を有す、此の愛家心ありて始めて愛鄉心となり、愛國心を生ずるなり。國を遠く家を離るゝに及んでは何人も强き愛家心に責めらるゝが常なり。外人夙に思家病(ホームシック)を謳へる實に其のところなり、殊に我國の家庭は家族共同の制度を律し、接する人多く而も團結力强きが故に我れを容れて生育せし我家を思ひ愛するの心强きは自然の理にして、幼少の時も今も猶は、病の時も夜も晝も、雨風の日も雪の夜も、我れを育てゝ生ひ立てし其の我が家が假令賤の茅屋なりとも他の金殿玉樓に勝る幾倍なるを知らず。されば父母兄弟は子女弟妹と共に樂しく家庭の平和を保持し以て强き愛家の精神を涵養せざるべからず。

あいきやうしん。(愛鄉心) 人は故鄉に生れ此の地に遊び、此處に人となれるを以て長く其の故鄉を記憶す。愛鄉心とは其の鄉里を愛するの念慮にして愛家心より發して、愛國心の基礎ともなるべきもの、而も此の心たるや人に固有なれば、宜く愛鄉心を利用して鄉里に關する正當なる地理歷史上の知識を與ふると共に大に奮發心を養成し鄉里の爲めに盡す强き愛鄉の念より努力して遂に其の身を高きに致すべきことを自覺せしめざるべ

からず。

あいけう。(愛嬌) 愛嬌は交際を圓滑ならしむるに預つて偉大なる力を有するものにして婦人に愛嬌なきは尚ほ玉に瑾の思ひあり。而して愛嬌は修養の如何によりて之れを養成し得るなり。其は何人をも人として交際するに上下の區別なく人格を重じ、先づ自己の心を修め、何人に對しても親切の心を養ふにあり。而も愛嬌は一に精神より發し言語に於て、擧動に於て、或は顏容に表はれ人をして愉快に感ぜしむれども其は自然に心の底より識らず知らずに湧き出でしものならざるべからず。此かる眞の愛嬌を有する人は眞直に其の身の實にして家庭の平和も此の主婦の愛嬌に依るものと謂ふべし。

あいこ。(愛己) りこ。(利己)の項を參照すべし。

あいこくしん。(愛國心) 愛國心は一國の歷史と共に自然に生ずる情操にして其の萌芽は愛家心、及び愛鄕心に發し、知識の進歩するに從つて此の情を一國に及ぼさんとす。而して愛國心の强弱消長は實に一國の死活、運命を左右するものにして、若し民に、愛國の念を缺かば國家の元氣は忽に消滅して其の獨立をさへ危きに致さん。されば國家の活動發展は一に國民の愛國心に待つものと謂ふべし。我國の今日あるは我が忠良なる祖先が强き愛國心の美果にして、我國民たるもの常に强き愛國の精神を以て尊王よく國家を愛護し一旦緩急あらば其の身を獻じて國家に犧するの信念なかるべからず。是れ單に皇國に對するの道たるのみならず。又、我が祖先に報い、子孫に示す所以なれば、子女の愛國心を養生す可く我國體の世界に無比なる所以を說き、其の國難に際して忠君の勇士が取りし態度、逸話平時に於ては文明富强に力を注ぎ能く自己の分を守つて其の天職を全うせし忠臣志士の傳記を以てして其の精神を皷舞するを要す。然れども自國をのみ過重するの極毫も他國を顧みず、世界に於ける自國の地位をも辨へずして徒らに他を卑しとなすが如き偏狹極端なる愛國心を養成せざるやう十分此の點に注意せざるべからず。

あいじやう。(愛情)

愛情とは自己の好むものに合體せんとする自發の情緒にして夙に赤子は慈母に此の愛情を呈せんとす、然れども兒童の愛情や甚だ變化性に富み、一時的にして極めて變り易く一定せざるものあるは記臆力薄弱にして且經驗の足らざるに因る。愛情は其の對象を自我と同一視して其の善からんを希ひ。其の幸福なる狀態を見ては尚ほ自己の有するもの、如くに喜ぶ。親子間に於て或は夫婦の間に於ける愛情は其の度に於て最も強くして而も純潔なり、若し親にして愛情なからんか何んぞ能く其の子女の心情を發達せしめ得べき、實に親子間の愛情は生命にして血液なり、未だ愛情なき教育の成功せるを耳にせず此れを夫婦に見る、愛情なき夫婦にして何ぞ家庭の和樂、圓滿を見んや。家庭は愛情によりて成立するものにして愛情は根本的の要素たるを失はずされど愛情の性質として動もすれば偏愛、溺愛に陥り易きが故に之れに理性より發せる正義の觀念即ち義務の念を以て節するを必要とす、愛情は猶ほ石油の如く正義は恰も火に似たり、火なくして石油の燃ゆるは實に危險なると一般義務の念を外にして獨り愛情を恣にせんか其の向ふところを知らず。されば常に愛情と義務とを調和し愛情の念餘りて猶ほ敬重の精神を失はざるを要す。其の子女を教育するに當つても一方に於ては濃厚なる愛情を以て暖むると同時に猶ほ他方に於ては義務の念を導いて冷し以て適度に之れを節制し力めて其の純潔を期せざるべからず。

あいすくりーむ。

夏季に於て賞用せらるゝ西洋菓子の一種にして此れを製するには砂糖四十匁を鍋に入れ、次に卵四個、更に牛乳二合を入れて火に近づけ靜かに攪きまぜつゝ、煉り、湯氣の立つ頃裏漉に通しアイスクリーム器に入れて水に冷し、碎きたる氷を布に包みて鹽二合許りを加へてアイスクリーム器の周圍に詰め置き其の器を數百回廻して凍らしむ、此れを客に出すには洋盃に盛りて匙を添ふべしアイスクリーム器なく、牛乳を得ざる土地に於ては煉乳を大匙に二杯と卵二個とを二合許の湯に薄め、半斤入の茶筒へ入れて蓋をなし米桶の深きものへ

入れて中間に氷を埋め上に鹽を置く、厚き毛布又はフランネルを蔽ひ以て氷を溶解せざらしむ。十分間毎に攪拌すれば一時間にして凍る。毛布もて蔽はずして怠らず茶筒を廻轉せしむれば更に可なり、猶ほ上等のアイスクリームを製するには卵の黄味二個、砂糖大匙二杯、牛乳一合を熱して更に新鮮なるクリーム一合にレモン油を加へ香料を施して凍らしむべし。

あかご。(赤子)

赤子の運動は啼泣にあり、泣くことに依りて肺を強くす故に少々啼泣するも他の食物は決して與ふべからず。赤子の胃は辛じて母乳を消化するのみ有するものなれば赤子は砂糖水をさへ消化するを能はざる狀態にあるなり。されば胎内に於て受けし毒を消さん爲めとて五香、或は鳥胡菜の如きを用ひ大下痢を起さしむるが如きは實に其の危險の度思はざるの甚だしきものと言ふべし、母乳中には多量の下痢劑を含み居るが故に決して下痢劑などを用ふるを要せざるなり、我國にては七夜の當日に赤子の頭髮を剃る習慣あれども赤子に取りては初毛は最も大切にして此れを剃らば感冒に罹り驚風に侵され遂には往々死に至らしむるが如きことあるが故に、初毛を剃るを嚴禁せざるべからず。又毎日入湯せしめてよく赤子の身體を檢査し異常あらば醫師を招くべく殊に眼、口、耳、鼻などは常に注意して此れを清潔に保たせざるべからず。

あかごのゑいせい。(赤子の衛生)

赤子は產湯後も攝氏三十六七度の湯に六七分間毎朝入浴せしめ身體を清潔ならしむべし、湯の浴せ方は頭部のみを露出して全身を湯に入れ柔き布にて徐ろに洗ひ、別器に湯を入れて眼を洗ふに先づ外眦より内眦の方へ綿もて靜かに拭ひ洗ふべし。小兒生れて二三日にして黄色を呈すれども此は赤子の黄疸とて別に恐るべきにあらず、自然に癒ゆべし臍帶の切れし後は清潔にして綿を當つべし、赤子は腹にて呼吸するか故に帶は極めて緩やかなるを要す。又、初毛は赤子の頭を保護するものなれば決して剃り落

會報

入會者（六月分）

山梨縣英和女學校　宇佐美あや

東京女子高等師範學校附屬幼稚園　石田ゆき

仝上　坂本せつ

仝上　十時とき

仝上　中島まき

仝上　市原次惠

仝上　鈴木まさ

愛媛縣北宇和郡宇和島字富澤町　芝せつ

福島縣田村郡三番町　清水一九二

會費領收

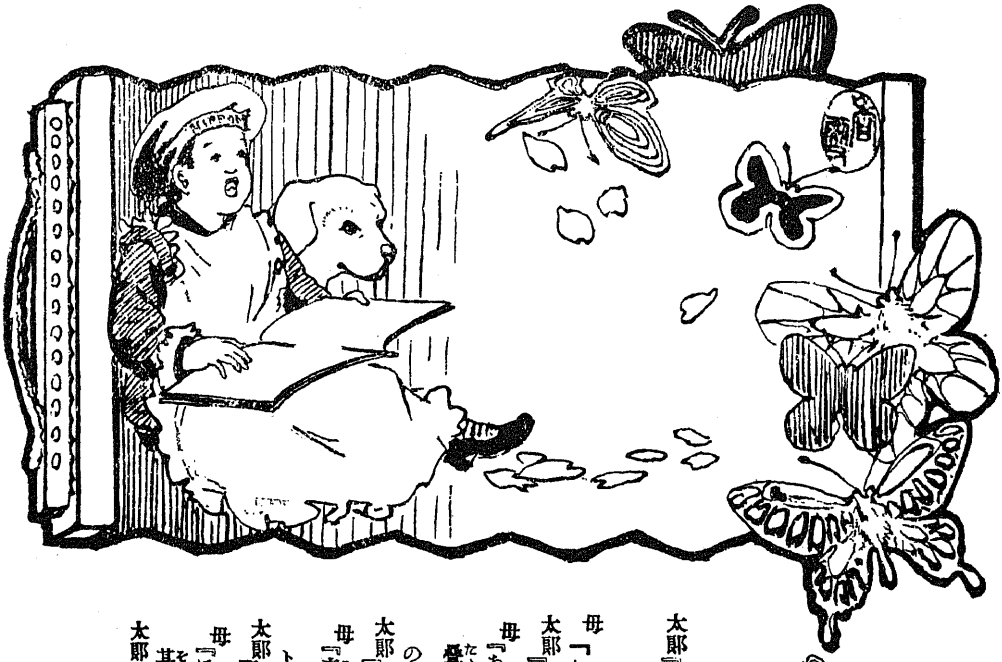
自明治三十九年五月廿三日至仝六月二十五日

金額	年月日	姓名
六〇	三九、一—三九、六	内田石
三〇	三九、一—三九、三	桑田勝
一〇〇	三八、九—三九、六	飯田咲
三〇	三八、七—三八、九	西川峯
五〇	三九、三—三九、七	須藤つれ
二二	三九、四—三九、五	松岡みち
九〇	三八、一二—三九、八	儀俄文
一〇〇	三七、六—三八、三	柴岡照
六〇	三八、一〇—三九、三	澤香
一〇〇	三九、四—四〇、一	和田藏
二〇〇	三八、一一—四〇、六	藤岡き
七〇	三八、九—三九、三	松岡さち
三〇	三九、一—三九、三	中屋とみ
一〇〇	三八、一〇—三九、七	吉田まさ
九〇	三八、七—三九、三	山田竹
三〇	三九、一—三九、三	高木萬壽
三〇	三九、一—三九、三	用瀬加代
三〇	三九、四—三九、六	奥田織衛
一〇	三九、六—三九、六	石田ゆき
一〇	三九、六—三九、六	坂本せつ
一〇	三九、六—三九、六	十時とき
一〇	三九、六—三九、六	中島まき
一〇	三九、六—三九、六	市原次惠
一〇	三九、六—三九、六	鈴木まさ
三〇	三九、一—三九、三	室田美津
七〇	三九、三—三九、九	伴茂樹
三〇〇	三七、一一—四〇、四	石島廣
一〇	三九、三—三九、三	富岡龜門
一〇	三九、三—三九、三	鳥居飯三郎
一〇	三九、三—三九、三	町田則文
一〇	三九、三—三九、三	佐方鎭
一〇	三九、三—三九、三	喜多見佐喜
一〇	三九、三—三九、三	伊藤弘一
一〇	三九、三—三九、三	佐伯外辰
一〇	三九、三—三九、三	金子まき

立裕	一〇	三九、三	一〇
千崎如幻	二〇	三七、三	二五〇
櫻井光華	二〇	三九、三	三八、六
下村三四吉	二〇	三九、三	五〇
林蝶	一二〇	三九、三	一〇
竹島茂郎	二〇	三九、三	一〇
山口酉三郎	一二〇	三九、三	一〇
森岩太郎	三〇	三九、三	一〇
中野與楚	三〇	三九、七	五〇
廣重一枝	三〇	三八、一	一五〇
岡松磯太郎	三〇	三九、四	一二〇
吉田千秋	三〇	三九、六	六〇
益田一枝	二〇	三九、四	一〇
松本まつ子	二〇	三九、四	二〇
奥田織衛	三〇	三九、四	一四〇
青山春子	三〇	三九、四	六〇
松平幸	三〇	三九、四	四〇
仝村貞子	三〇	三九、四	六〇
松下テイ	三〇	三九、四	二〇〇
柳野菊江	三〇	三九、四	一二〇
曾中屋トミ	三〇	三九、四	一〇〇
淺井泰	三〇	三九、四	六〇
千賀千枝	三〇	三九、一	一二〇
星野きく	三〇	三九、四	一二〇
横澤てい	三〇	三九、四	一二〇
桂乙和	三〇	三九、四	一〇〇
南枝野千枝	三〇	三九、四	六〇
太田捨	三〇	三九、六	三九、一一

桑田勝子
山田竹蓉
高木萬
用瀬加代
樋口イク
室田美津
京口さだ
高橋谷はま
和田寛
大關と代
岩井千年
武井綱枝
雨森釧
下田たつ
小柳ゆき
加藤節
斯波や
今立祐
東基吉
金子まさ
佐伯外滇
伊藤弘一
岡田みち
佐方則文
町田鎮
黒田定治
島居鈺三郎

富岡龜門	三〇	三九、四
中村五六	三〇	三九、四
尾田けい	三〇	三九、四
山口酉三郎	三〇	三九、四
森岩太郎	三〇	三九、四
立花はる	三〇	三九、四
小出末次郎	三〇	三九、四
掘越源三	三〇	三九、四
竹島茂吉	三〇	三九、四
下村三四郎	三〇	三九、四
林蝶	三〇	三九、四
小池みち	二〇	三九、五
波佐谷かね	二〇	三九、四
瀧川みさ	四〇	三九、四
柳川松子	一〇	四〇、一
平山ひさ	一〇	三九、七



ふにばす。

太郎『あら、母さん、お池のかへるが蓮の葉に上つて居ますよ、面白いなあー、』

母「おやそを？　それは面白いねー』

太郎『坊もかへるだと乘れるのだけれど……』

母『あ、そをですね、あの蓮の葉がもつと〳〵大きくて疊の大きさ位ある鬼蓮と云ふのだとほんとうに坊位の子供が乘つて遊べるよ』

太郎『母さん其おにばすつて云ふの、何處にあるの？

母『夫れはね、もつと、すつと、南の方の暖かいオーストラリヤと云ふ國にあるのだよ』

太郎「むづかしい名だなー僕にわからないや』

母『ほ、今に學校に行くと先生がお話して下さるから其時によく』お覺えなさい』

太郎『あ、早く學校へ行きたいなあ』

春子と夏子

豐子

むかし〳〵ある處に二人の美くしいお姫様がいらっしやいました或日の事お父様のおっしやるのに「お前達も大きくなったから二人でお隣の國までいってごらん」

とのおいゝつけでした。そこで姉さんの春子姫はいたって素直な方でしたからすぐに「はい」とおっしやって旅立の仕度にかゝられました。

まづお父様からはお金お母様からは少し許りのパンとをいたゞいて住なれたなつかしい御殿を見返り〳〵幾度も

「お父様お母様夏子さんいって參ります」といって、やがて一足〳〵か

げも少さくなり聲も聞えなくなりました。

で、だん〳〵歩いて行きますと、いつか廣い〳〵野原に出ました。

今迄御殿の御庭より外あるいた事のない春子姫は、足もつかれ道も分らず、其内だん〳〵と日は暮れかゝるしどをしようかと心細くなって立って居りますと、向ふから白い長い鬚のはえたお爺さんがとぼ〳〵とあるいて來ました。やがてお姫樣のそばへ來て、

「あの御姫樣私はもを二三日前から何もたべずおなかゞすいてたまりませんどをかあなたの持ってお居でのパンを少し下さい」

と云ひますので、春子さんは自分の御腹のすいた事も忘れ、

「まあ可哀想に、では此パンみんなあげませうね」

といってお母樣からいたゞいて來た晩の御辨當をみんな出して

やりました。するとお爺さんは大層よろこんで、

「御姫様之から少し行くとばらの垣根があって中々通れませんから、其時は之で垣を分けていらっしやい」と云って一本の細い杖をくれました。

春子姫はお爺さんに道を教はったので、悦んで其方へ行きますと、大層なばらの垣がありました。枝と〳〵重りあって一寸もあるとげが一面に出て居ます。どんな強い人でも、中々通れそうもないのでしたが、春子姫はさっき貰った杖で道を分け〳〵少しも、とげにつゝかれもしないで通りこしましたが、中々骨が折れてくたびれたので、丁度そこにあった古井戸のそばに腰かけて休んで居りました。すると是は不思議、其井戸から少さなきたないお婆さん

が顔を出して、

「お姫様〳〵今日はよいお天氣で御座います、どをかわたくしの髪をとかして下さい」と云ひました。

春子姫は、あまりの事にびっくりしましたが、見ると可愛らしいお婆さんで、髪の毛がめちや〳〵ですから、云ふなりに自分の立派な櫛で奇麗にとかしてやりました。お婆さんは大悦びで、にこ〳〵しながら、

「あなたはほんとうに優しい心の御方だから、之からあなたの歩くたんびに、いゝ香のするやうにしてあげませうね」

といっていつのまにかひっこんでしまいました。すると又一人のお婆さんが首を出して、

「お孃様今日はよいお天氣で御座います。私の着物が大層破けましたからお孃さんの着物を一枚何うぞ私に下さいまし。」と云ひますから

「あゝそをさね、それでは此上衣を上げ様下着は汚れて居て穢ないから。」と云ってきれいな上衣を遣ってしまいました。お婆さんは大層悦んで「是れは〳〵何うも有り難う御座います。其代り貴女が歩くと貴女の着物が立派なものになる様にして上げませう」と云ふかと思ふと居なくなってしまいました。すると又一人飛び出しました。そして今度は大層おう柄に

婆『おい〳〵お前は先刻からもを大分休んで居たらうから私の肩を叩いてお呉れと云ひますので今度は按摩さんをして遣りまし

た。けれど何時迄經ってももをいゝと云ひませんので手が疲れて肩が痛くなってしまいました。やがてのことに、

婆「あゝ大分樂になった。もをよからう」

と云ひながら有りがたうとも云はないでどん〳〵井戸の中へ入って行きました。で、もを見えなくなるかと思ふ頃に後を振りかへってそして急にこ〳〵しながら

「お孃さん貴女はまあなんと優しい方でせう。私は今日の御禮に是から貴女を世界一の仕合せ者にして上げませう」。

と云って見えなくなってしまいました。そこでお姫樣も大分休みましたからそろ〳〵と又出掛けて行きますと、だん〳〵町に近くなって來たので人通りが多くなって　此子の傍を通る人が殖え

て來ました。すると不思議なことに通る人も〳〵も皆

「あゝ、きれいな着物だな、何んと云ふ立派なお姫様だらう。おや何んだか好い香がするよ、あ、お姫様の香だ、あゝ好い香だなあ——。」と皆感心して居ました。すると丁度此處を隣り國の王様がお通りになって大層御悦びなさって、

「私に子供がなくって困って居たのだから此子を私の子供にしやう」。と云って遂う〳〵王様のお姫様になって大層仕合せな人になりました。

さて。姉様が隣り國の王様のお姫様になったと云ふことをお父さんやお母さんの處に知らせて遣ると例の欲ばりで意地惡の妹の夏子姫は「私も姉さんの様に旅をしてそして王様のお姫様にな

らうや」と思ってお父さんにお願ひするとお父さんは

「お前も姉さんの樣に旅がしたいかうん〳〵宜からう。けれどお前は家に居た時の樣にしはん坊や不深切な事をすると姉さんの樣な仕合せな人にはなれないよ」。と云ひましたが妹はお父さんのおっしやった言を何とも思ひませんでした。そしてたくさんのぱんを持ってだん〳〵歩いて前の森の所へ來ました。茲で少し休んで居ますと又先刻のおぢいさんが出て來て

「是れは〳〵お姫樣今日はよいお天氣で御座います。私は今朝からまだ御飯を戴ませんのでお腹がへって堪りません。何うぞ何か喰べるものを頂きたう御座います。」と申しますと夏子姫は頭を振って、

「いやだよ、お前なんぞにやるものはないよ、此ぱんは私がお腹がへった時に食べるのだからいけないよ」と云って何も遣りませんでした。やがて此處を出てだん〳〵行くと薔薇の垣根の所に來ましたが、竹の杖がないので薔薇を開くことが出來ません。仕方がないから一生懸命手でかき分けて通ったので顔やら手足やらそこら中創だらけになって漸くのことで向ふへ出られました少しく行くと道傍に井戸がありましたので

「是は幸ひ先づ一と休み」と水を汲み喉をしめしながら休んで居りますと井戸の中からまた穢ない一寸法師の婆さんが出て來ました。そしてまた髪を結ひ直して下さいと云ひましたが、夏子姫は

「いやだよ、まあこんな穢ない頭、いぢれるものかね」

と云ってかまひませんでした。すると、井戸のお婆さんは

「よし〳〵そんなに邪慳にするなら是れからお前さんの歩く度にお前さんの身体から臭い香の出る樣にして上げるからいゝ」と云ひながら井戸の中へ入てしまいました。すると今度はまたぼろ〳〵の着物を着たお婆さんが出て來て、

「お孃さん何うぞ私に着物を一枚戴かして下さいと云ひますと、妹「いやだよ、お前なぞに遣る着物はないよ。此着物を脱ぐと私が寒いからいやだよ。」と云って遣りませんでした。お婆さんは

「よし〳〵それではお前さんの着物を織ない〳〵着物にして上げるからいゝ」と云ひました。此一寸法師が居なくなると直に今度は横柄なお婆さんが出て來て

「これ〳〵夏子姫、お前はもを大分休んだから少し私の肩を叩いてお呉れと云ひますと、夏子姫はさも呆きれたと云ふ風で

「なに？　肩を叩けって、夫れはまあ誰に云ふのだへ乞食の癖に、私はお姫様だよ、下女や按摩さんではないよ、」

と云って少しもかまいませんでしたのでお婆さんは、大層怒って

「よし〳〵　夫れではお前を今に世界一の不仕合者にして遣るからいゝ」と云ひながらかくれてしまいました。

夏子姫は少し疲労も休まったので此處を出で町の方へだん〳〵來ると通る人も〳〵も夏子姫の傍を通りながら皆鼻を摘まみ顔をしかめて

「おゝ臭い〳〵何と云ふいやな嗅だらう、此娘は一体何んだへ。」

と云って笑って居ました。

そをすると向ふから一人のでい〳〵屋が

「でーい〳〵」と云ひながらやって來て

「おゝ私は子供がなくて困って居た所だ、けれど私には誰れも子供を吳れる人がないから、彼の娘を私の子にしよう」と云って遂〳〵でい〳〵屋の子にしてしまいました。

おしまい。

本ぶ伽話には二枚の挿畫を致す筈で原稿迄出來上りましたが、彫刻が間に合はないので遺憾ながら入れられませんでした。次號よりは必ず澤山の挿畫を致しますから其御積りで本號だけは御容謝を願ひます。

月刊 女子成功 雜誌

第一號 七月二日發行

一部定價十五錢（郵稅一錢半）
半ヶ年分前金九十錢（郵稅共）

自作の家庭のを……島崎藤村
女子小說禁讀說？……幸田露伴
蔑覽奴……青柳有美
女子の文學に就て……夏葉女史
女子と川柳……久良岐
詩と糸……兒玉花外
英詩（ふりにしやまと）……ヒユーム
泰西式初舞臺……幽蘭女史
婦人寫眞……川村校長
女子の趣……尾崎行雄
女子新方面……
●女子大學校と苦學女生……成瀨仁藏
●女學生煩悶慰安法……加藤弘之博士

附錄
女子時文……（其一）學習院女學部長 下田歌子
酉眼に映ぜる日本の閨秀文學者……コンガー女史 震五子譯
女子成功の方法……バークレー女史
蒙古王教育顧問 河原操子成功苦心譚……水山明美
世界に轟ける唱歌者ノーディカ夫人成功……マーデン 震五子譯
女子學院長 矢島揖子女史成功立志譚……天衣逸民

實業
米國の女子新職業……哲學博士 片山潛
女子手藝と收入法……美女校主 山田與松
銀行の女員好遇……勸業銀行劵書課長 渡邊滋
裁縫塾開業案內……渡邊女學校幹事

女子は如何にせば成功し得べき、……安部磯雄 棚橋絢子 今井歌子 色々の特見と誌上
米國女生交際眞相……片山潛
女學校選擇法……三輪田元道

小說
流轉……後藤宙外
二階は神秘……岩本無縫

女子成功社
東京神田三崎町三の一

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

村井弦齋氏夫人大婦に助力せらる

大好評

婦人世界

實用專一

七月三日發行　毎月一回　第七號　郵税一錢　五厘　半年分郵税共九錢　一年分一圓　七拾五錢　一冊　五拾錢

婦人の日常生活

村井弦齋

▲心の食物は何が宜きか
▲讀書は何を擇ぶべきか
▲裁縫は如何にすべきか
▲家庭では何を縫ふべきか
▲股引は如何に用ふべきか
▲洗濯は如何にすべきか
▲買物は如何にすべきか
▲貨幣は如何に取扱ふべきか
▲晝飯は如何に用意すべきか
▲辨當は如何に拵ふべきか
▲入浴は何時が宜きか
▲入浴は何の効能があるか
▲入浴は如何なる順序にすべきか
▲風呂の水は何が宜きか
▲浴後は如何にすべきか
▲爪は如何に剪るべきか
▲爪は如何に撿査すべきか

右は村井弦齋氏が貳拾年間の研究實驗に成る實用的大文字

◎弦齋夫人の料理談

△玉子は如何に料理すべきか
△胡瓜は如何に料理すべきか
△茄子は如何に料理すべきか
△豆腐と魚は如何に煮るべきか
△牛乳は如何に料理すべきか

◎學生時代の追懷(鳩山春子)◎外國婦人と日本畫(跡見玉枝)◎暑中休暇は如何に利用すべきか◎買物案内◎武田錦子の面影◎重寶なるミシン器◎小兒夏期の衛生(加藤ドクトル)◎婦人の衛生(伊庭學士)◎夏の流行◎理想の避暑地◎小説◎讀者文藝◎

◎口繪

◎英國皇后並に皇太子妃殿下◎
◎名家の新婚撮影(頗る珍品)◎
◎東宮殿下御前席書の少女◎
◎獨逸婦人の描きたる日本畫◎
◎印度の美人と印度婦人風俗◎

彩色石版

磯の戯れ……西洋名畫

繪手本

金遣花……跡見花蹊
夏の雨……中澤弘光
夏の富士……中澤弘光

發兌元　東京橋南紺屋町二番地　實業之日本社　電話新橋四八番七　賣捌各地書店

後付の一

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

胃病根治劑

數年難治の慢性胃病を根治し消化機能を強壯健全になす靈藥

從來世に胃病藥頗る多しと雖ども皆一時の苦痛を凌ぐ制酸劑(即ち重曹マグネシヤ、苦味劑)の如き一時おさゑムネスカシ的舊式賣藥のみにして未だ嘗て根治的に其病の基因を斷つ良藥あるを見ず、本劑は獨乙國高名大醫ノーデル氏處方に基き本邦胃病患者に適切なる新有効藥を配合し百方實驗其奏効顯著なるを確認發賣せし最も進歩せる完全なる新藥にして數年難治の頑固なる慢性胃病にても根本より誓つて根治し胃腸を健全に壯ならしめ食慾を催進し便通を快くし氣力を壯にし精神を爽快活潑にする空前の完全最新藥なれば從來種々雜多の胃病藥を用ひて効なく多年病苦に呻吟せる患者は一日も早く本劑を服し病根を斷絶し無病強健の大幸を得られよ輕症は壹劑重症は貳劑慢性症は參劑にて根治確證す

(藥價) 壹劑四拾貳錢　貳劑八拾錢　參劑壹圓拾錢　郵券代用貳割增し

新輸入肉體美容劑 色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色黑き男女にも特別製貳劑を用ゆれば忽ち肉體多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑を試み見よ眼前に峻烈なる特効を覺ゆ眞に奇効顯著の確證新劑 價は単製金壹圓貳拾錢特別製金壹圓七拾錢

純白色に變化し艶美の容貌となる確證す世上種々雜

以上二藥 專賣元 東京市神田五軒町拾九番地 日新館藥房

月やくおろし

下する特効あり本劑參劑分を用ゆれば二三ヶ月間滯りたる月經にてもキレーに流下す又特別製分を用ゆれば半年以上の月經閉止及ひ血塊にても必ず立處ろに流經す且つ月經不通月經不順より起る子宮病血の道を全治し多年滯りの古血及惡血毒血を一掃するを確證す但し本劑は其奏効極めて峻烈顯著なるも毫も衛生無害なり婦人諸君安心して試藥あれ價は壹劑分七拾錢貳劑分壹圓七拾錢特別製分貳圓參拾錢 參劑分壹圓廿錢

(注意)本劑の大盛を羨み近時續々怪しき無効なる類似偽藥顯はる用藥者は深く注意ありて「專賣元日新館藥房」の名義に注目し購求あらんことを乞ふ

本劑は胃腸を痛めず子宮を害せず如何程長き月經閉止も心ず忽ち快通流

わきがの臭

根治確證 新發見藥

醫療賣藥百方手を盡せし如何程頑固劇烈の慢性わきがにても誓て根治し決して再發或は他世紀的改良根治新藥なり速に試み苦惱を脫せよ價は輕症根治分六拾錢重症根治分壹圓廿錢頑固劇烈の慢性症根治分貳圓廿錢着金即刻送藥す郵券代用必ず二割增の事

以上貳藥 專賣元 東京市神田五軒町拾九番地 日新館藥房

(電話下谷五四六番)

後付二

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

算術教授の虎の巻

長野縣立高等女學校教諭 白土千秋先生
福岡縣立師範學校訓導 阿部清見先生
合著

國定準據 算術教材資料

尋常科ノ部 全二冊

定價 上卷五十錢 郵稅六錢
下卷六十錢 郵稅六錢

國定準據算術書の發刊頻々として出で寧其の數の多きに過ぎたるが如し然れども所謂每時配當的器機的教案なるものにして實地教授者をして自由に活用せしむるの餘地なく而も材料の選擇排列は趣味と嶄新とを欠けるもの比々是れなり本館茲に見る處ありて敢て著者の勞を煩はし本書を公にす實に優秀無比の好著にして雞群の一鶴たるべし今本書の『特色』の二三を擧ぐれば左の如し

本書の特色

一、教材は國定教科書との聯絡に注意し兒童に經驗界裡にあるもの及生活上必須の事項に求め勉めて興味ある事實をとれり

二、事實問題に於ける事實的數量は總て精密周到なる調査を遂げたるものなり

三、問題の撰擇排列並に提出の方法は嶄新にして興味ある方法を攻究し兒童をして自ら計算動機の奮起あらんことを勉めたり

四、問題の提出は其の順序系統を精密にし前の問題は必ず後の問題の準備關鍵となり兒童をして知らず識らずの間に算法の新階段新形式の中に進入せしめんとせり

五、本書を參考する時は教授者は更に自ら諸種の興味ある問題を作出することを得應用極めて便宜にして自由なり

發行所 東京市京橋區南大工町 弘道館
電話本局二八〇四番

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

文部省視學官農學士
帝國大學農科大學助手　針塚長太郎先生
山崎德吉先生　共著

養蠶教授指針

菊判形全一冊
寫眞版木版挿畫十數個
正價金二十五錢
郵稅四錢

▲小學校教授用

針塚視學官農村の小學校に養蠶を課するの教育上實益上極めて必要なるを感じ、斯道に精通せらるゝ山崎先生と共に本書を著して之を本館に授けらる本館又國家に盡すの微意を以て、全く營利を外に措き汎く其實行を望んで茲に殆んど實費の定價によりて發行するに至れり、記事平易にして簡明且つ多くの精細なる挿畫を挿み記事の足らざるを補ひたれば一讀に實行することを得べし、尚本書は獨り教師諸君の參考用に止らず農業補習學校乙種農學校或は講習會等の教科書として最もよろしく又獨習者の手引には殊に適當せるものと謂ふべし

發行所　東京市京橋區南大工町一番地　弘道館
(電話本局二八四〇番)

後付の四

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

見よ！全國小學教員の機關教育界の羅針盤を

第五卷第一號六月七日發行

一部郵税共金十四錢
三月分前金四拾貳錢
半年分前金八拾錢
一ヶ年前金壹圓五拾錢

教授界革新

實驗教授界

毎月一回七日發行

第五卷第一號要目

△東京府重要物産精圖並に解説　文學士　村上辰午郎
△修身教授私見　匈牙利大學教授　佐々木吉三郎
△地理教授の栞　東京遊戯法研究會講師　中川濟
△遊戯教案
△割烹科講義　奎門女子美術學校講師　富田花紅
△松浦佐用姫の傳説　文學士　吉岡郷甫
其他湯本武比古、下田次郎、磯江潤、岸邊福雄、竹中信次、大元茂一郎、羽山好作等數十氏の論説、實驗教案、雜筆等あり

發行所　本郷片町西八　實驗教授會

大賣捌　東京堂　東海堂　北隆館　上田屋　其他　良明堂

▲毎月一回●一冊拾錢●郵税一錢●六冊五拾六錢▼

最進歩せる
最完全なる
最美術的なる
最科學的なる
最多趣味なる

少女

第貳號

七月三日發行

少女の
安詳恭敬（棚橋絢子）
少女の誠め（加藤弘之）
急ぐな（津田梅子）
自然に親め（井上哲次郎）
かくすな（羽仁もと子）
確實を撰べ（下田次郎）
自分の事（片山潛）
惡い習慣（三輪田元道）

御伽噺
天上界春の賑（應賀秀湖）
片輪娘（貞雄）
紅連白連（素庵）
あまりにたかい（素村）
獅子の恩かえし（寒）

口繪
日本上古の少年（五色石版）
王樣ごつこ（三色版）
東洋幼稚園（銅版）

少女わ勿論、御父さんも、御母さんも、兄さんも、姉さんも、御讀みなさい

記事
わなんど

催眠術の話（津川海村）
螢とたねがら（小野有香）
瀧姫（柏木鶴月）
X光線（記者）
歌がたり（記者）
時計の歴史（記者）
梅雨の話（記者）
ウイラード女史の少女時代（記者）
動物の變態（記者）
厚紙ザイク（記者）
岡田みつ子女史立志傳（記者）
チヨン髷の見た西洋人（記者）
世界最少國モナコ（記者）

發行所　東京市牛込區簞笥町二十五　明治少女會

後付の五

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

花の心

編輯主幹
佐々木信綱

第十卷第七(七月一日發行)

大塚楠緒女史の苦心の小説『虞美人草』は卷題を飾り樫尾文學士の『荷田東丸の歌』は二十余頁の長論文夏葉女史の『青葉かげ』畔柳文學士の『初夏の草』井上通泰氏の『万葉管見』沼波文學士の『分身』長文學士の『端午』佐々木氏石槫氏の短歌等材料豐富趣味津々たり且古歌集講義は歌に志ある人が必讀のもの

毎月短歌課題あり。投稿を歡迎す

定價郵税共　金十三錢　六冊前金七十五錢

東京日本橋區本石町一ノ一
竹柏會出版部

のぼけあ集歌

佐々木信綱氏選
三宅古已氏畫(クロース製美本)
一條成美氏畫

現今の歌壇に清新の歌風を唱道せる竹柏會の俊秀が近作を、佐々木氏の精選せられしもの。短歌數百首新体詩十數篇。作者は川田順、石槫千亦、印東昌綱、大塚楠緒子、片山廣子、橘糸重子等十二の才子才媛とす。戀愛を歌ひ、自然を詠じ、悲哀の情を寄せ、幽遠なる思想を吐し、讀者をして例へば美はしき曙の野邊にさまよひ入るの思あらしむ。詩歌に志す人の好摸範憂ある人の慰籍者、或は旅中の友として綠蔭必讀の好詩集なり

正價郵税とも金五拾六錢

神田小川町一番地
竹柏會

後付の六

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

文學士　北澤定吉先生著

偉人耶蘇

●再版

洋裝菊判
總クロース美本
全一冊
正價金七拾錢
郵稅金八錢

神祕說に同情を有してしかも知識を輕視せず、基督其人を敎仰して、しかも基督敎徒たらず、專心哲學を究めて宇宙の繼を解かんと欲す、かゝる立脚地にある著者が、鋭き批評眼もて四編學書を精讀し、『人としての基督は如何なる儀表を與ふるか』てふ趣味ある問題を究めて、新しき解釋を基督其人に與へしは本書なり。基督の人格を中心として、基督敎の倫理を說き、實踐道法を論ず。議論正大文章優雅、讀まば正さに基督を地下に起してこれと語るの感あるべし。先づ己自らを修養し、身を以て弟子を率ひんとする**敎師諸君**は、本書に於て**好指導を發見**すべし

發行所　東京市京橋區南大工町一番地　**弘道館**（電話本局二八四〇番）

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

家庭新教育書と無類の少年讀物

日曜讀本

女子高等師範學校教諭　東　基吉先生著

菊判形頗ル美本　口繪國觀、香雪挿畫數十種

▲未曾有の珍本である

強い日本

前東京高等師範學校教授　樋口勘次郎先生著

口繪尾竹國觀◎一條成美、挿畫　全一冊正價金十錢郵税四錢

△戰勝紀念少年の有益な讀物

歷史芝居　熊襲征伐

樋口蘭林先生作○宮川春汀口繪挿畫

全一冊　正價金十錢　郵税四錢

△これまで類のない珍本である

△家庭でも學校でも芝居が出來て面白き本

日本の覺悟

樋口勘次郎先生著　國觀春汀畫

▲菊判形頗ル美本口繪挿畫十數個入價金十五錢郵税四錢

歷史芝居　入鹿退治

樋口蘭林先生作○宮川春汀畫

○菊判形全一冊口繪挿畫六葉挿入價十五錢郵税四錢

米の話

農學士吉村清尚先生著　國觀○禾月畫口畫

△菊判頗ル美本口繪十數葉採色石版挿畫十數個定價十五錢

從來發刊せしお伽噺と同一視する勿れ弊店發兌の少年讀本は未曾有の仕組で兒童をして面白き御噺を見る中に知らず識らずの間に頭腦に新空氣を注入する方法なり

後付の八

發兌元　東京京橋區南大工町一番地　電話本局二八四〇番　弘道館

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

文學士　北澤定吉先生新著

哲學史綱

洋裝背皮菊判形
全一冊
正價金九十錢
郵稅金十錢

哲學は諸學の大本にして教育學倫理學心理學とは密接不離の關係を有するものなり。識見非凡なる教育者の斯學の研究に由りて、倫理心理教育等に關する根底ある知識を得んとするもの故なしとせず。唯憾む哲學の大綱を說きて簡明なる良書なきを。本書は「哲學史即哲學」の立場より、哲學史の大綱を示し、兼ねて哲學の大綱を說けるもの、本書を措きて何處にか哲學の大綱を學ばん。試に本書の特色を列擧すれば、

本書の特色

▲本書は大學院にありて專心哲學を研究しつゝある著者が四年の苦心を經て集め得たる數千頁の材料中より其粹を拔きたるものなり

▲本書は在來の哲學史の如く列傳體をとらず、意を用ひて學說の發展を辿り思想變遷の跡歷々として掌を指すが如きものなり

▲本書はカント以後最近世の哲學を略叙する在來の哲學史に慊焉たらず特に意をこの部分に用ひしものなり

▲本書は巧に哲學史と哲學概論とを統合してこれを系統的に叙述し且つ學語人名の索引をも附して哲學辭書の用を兼ぬるものなり

後付の九

發行所　東京市南大工町　京橋區　弘道館　電話本局二八〇四

賣捌店は全國到る處有名の書店にはあります

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

好評嘖々たる遊戯書

廣島高等師範學校教師 吉田信太先生作曲
廣島高等師範學校教師 原藤藏先生作技

(好評七版發賣)

國定讀本 **唱歌遊戯教授書**

洋裝菊判色クロース無類の美本
尋常科の部 全一冊 郵税拾錢 正價金八拾錢
高等科の部 全一冊 郵税拾錢 正價金八拾錢

▲讀め……唱歌遊戯教授に新光明を發はさんとする教育家は

▲讀め……訓育上、體育上、効果を顯はさんとするの教育家は

▲讀め……戰後に於る勇健の國民を養成せんとする教育家は

『教育新聞』批評の末項に特に編述の方法の愼重親切なる綿密の圖畫數十葉を挿入して説明を補け並に其目的効用及教授の注意を述べ更に各技に理論を附記したる等教授者の便利少からず今や體操に關しての良著述あるも遊戯に關しては殆んど師とするものなき有樣なる場合に當り教員の好伴侶たるもの恐らく此書を外にして他に求むべからざるべし

後付の十

發行所 東京京橋區南大工町一 弘道館

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

教育家の必讀書

▲輓近の新好著▼

醫學博士　瀨川昌耆先生校閲
福岡縣師範學校主事　織田勝馬先生
長崎縣立高等女學校教諭　白土千秋先生　合著

小學兒童劣等生救濟の原理及其實法

好評四版發賣

洋裝菊判形全一册（正價金六十錢　郵税金六錢）

近時教育に關する諸般の研究殆んど至らざるなし然るに獨り劣等生に關する根本的研究と之が救濟法たる實濟的攻究とに關し曾て好著の公にせられたるものあるを見ず而も該問題に對する現今實地教育家の態度は宛も大旱に雲霓を望むが如きものあり蓋本書は時運の產出物と見る可きものなり乞ふ左の條記に依て本書の價値の一班を推知せられよ

△本書は先づ劣等生の意義を確定し之が救濟上の教育的可能を論せり

△本書は劣等生に關する各種の原因を詳に探究し之に對する教育的取扱法を極めて實際的に說述せり

△本書は劣等生救濟に關する教育的任務と醫治的任務とい區別を明かにせり

△本書は劣等生救濟法としての人格變換論を說述したり

△本書は劣等生取扱法に關する諸方案幷に特殊教授法及各教科目につき教授上の實驗的注意を詳述せり

後付十一

發兌　東京京橋區南大工町一番　電話本局二八〇四　弘道館

●御注文の節は(婦人と子供)を見たる旨御附記を乞ふ●

▲日本家庭辭書要目▼

一、家庭組織、
二、結婚制度、
三、家庭行事、
四、家庭要具、
五、工藝品（織物、陶、漆器等）
六、家庭衛生（衣、食、住の衛生、沐浴、各機官の衛生、看病法、疾病、應急療法 婦人衛生、小兒衛生、）
七、家庭法律（出生、死亡 相續、婚姻、戸籍民法に關するもの）
八、家庭道德、
九、家庭禮儀（和洋禮式）
十、家庭交際（交際と修養及び交際の要訣等）
十一、交通制度、
十二、家庭宗教（神、儒、佛、耶蘇教、信仰と迷信等）
十三、家庭教育（知、德、體、美育、女子教育、精神的病弊矯正法）
十四、家庭經濟、
十五 家庭料理（日本料理、西洋料理）
十六、裁縫洗濯（裁縫、洗濯、汚點拔の心得）
十七、家庭園藝、
十八、家庭養畜、
十九、家庭娯樂（娯樂、生花、茶の湯、音樂）
二十、家庭遊戯（家庭に行はれ易き和洋遊戯）

以上二十項に分ち必要なる項目千餘に亘つて懇切に説明を與たり。

見本御入用の方は無代進呈す

後付の十二

發行所 東京市京橋區南大工町一番地 弘道館

謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者諸君の質疑照會に應ず、

但返信料を要す。

本誌は又一般讀者の寄稿を歡迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戯、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。

但投稿は、凡べて左の規則によること。

一、用紙は、白紙、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。

一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。

一、原稿は、一切返附せざること。

一、封書の表には、凡て婦人と子ども投稿と明記せらるべし。

一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。

一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから其割合で何ヶ月分かを纒めて東京京橋區南大工町一番地書肆弘道館へ御送金の上本會へ御申込下さい、さすれば雜誌は該館より御送付致します。會員にならずに雜誌丈け讀みたい方は左の割合で矢張仝館へ御注文下さい、

一冊金拾錢六冊前金五拾七錢拾貳冊金一圓拾錢外に郵稅一冊五厘づ

明治卅九年七月一日印刷
同　年七月五日發行

禁轉載

發行兼編輯者　辻本卯藏
東京市京橋區南大工町一番地

印刷者　日下主計
東京市神田區錦町一丁目十九番地

發行所　フレーベル會
女子高等師範學校附屬幼稚園內

發賣元　弘道館
東京市京橋區南大工町一番地
（電話本局二八四〇）

大賣捌　東京堂　北隆館　東海堂

(婦人と子ども第六卷第七號)
(明治三十九年七月五日發行)(毎月一回五日發行)

明治三十四年二月六日內務省許可

序

文學博士 井上哲次郎先生
文學博士 井上良勇先生

文學博士 井上圓了先生
學習院女學部長 博士 下田歌子先生

西山愁治先生編(家庭の小圖書館)

日本家庭辭書

中村不折の三色版口繪挿入
◉四六判形總クロース頗ル美本 全壹冊
船來上等紙摺
◉紙數凡八百餘頁
定價金壹圓三十錢
內地小包料十五錢

▲特價期限七月二十日
▲壹萬部限り特價九拾錢(期限內ト雖モ滿數ノトキハ不得止正價ニ復スルコトアルベシ(小包料十五錢))

內容の見本御入用の方は往復はがきにて御申込あらば直に送附す

家庭問題は今に殘されたる社會問題として、又世に出づる家庭向きの著書敢て尠なきにあらず、尠からず惜むべし、多くは一時的際物の零片を以て充たさる。即ち編者西山先生此に周到の用意、多大の苦心、抱負を以て、本書を編纂せられたれば、家庭は此れに依て光明に浴し、新しき福音に接するも尠からざるを信ず、幸に世の流行的一夜作の駄編と同一視する勿れ。本書の內容は家庭組織、結婚制度、法律、道德、交際、交通、禮儀、教育、宗教、衞生、家具、經濟、行事、料理、裁縫、洗濯汚點拔、園藝、養畜、生花、茶道、音樂、遊戲等に就て最も家庭に必要なる粹を拔きて千餘項を選擇し、五十音順に配列し、說明懇切なること家庭に關し細大漏さず以て忠實なる家庭の顧問たるを期せり。即ち本書を家庭必備の寶典として一般の家庭に獻じ、進物殊に結婚出產の贈物として薦め、又教育に熱心なる各學校、教育家及學生諸君の備品として推す、幸に購讀の榮を賜はらんことを。

發兌元 東京京橋區南大工町一番地 電話本局二八四〇 弘道館